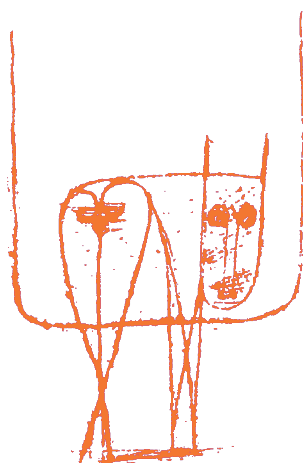

神奈川県立近代美術館
年2022報
ANNUAL REPORT



神奈川県立近代美術館

年2022報

ANNUAL REPORT

目次

[凡例]

- ・本年報に記載する人物は、原則として敬称略とする。
- ・各学芸員の役職は「職員一覧」(p.57)を参照のこと。

あいさつ	3
展覧会活動	
2022(令和4)年度展覧会 会期・観覧者数一覧	4
葉山館	5
鎌倉別館	16
教育普及活動	
2022(令和4)年度 教育普及事業実績一覧	22
団体来館受入状況	27
美術図書室	28
美術館紹介・広報・掲載実績	29
刊行物	30
2022(令和4)年度の神奈川県立近代美術館の教育普及事業 —神奈川県立武山養護学校との共催事業と教材「包と形を並べてみよう」の開発について—	31
作品蒐集管理活動	
2022(令和4)年度 購入・寄贈・寄託状況	32
2022(令和4)年度 新収蔵作品一覧	32
館外貸出作品一覧	39
修復報告	40
2022(令和4)年度 修復作品一覧	46
美術作品の状態記録を目的とした簡易 3D スキャンの活用 [橋口由依、本田秀行]	47
美術館資料の保存と活用	49
調査研究活動	
調査・研究報告	
松本竣介の《立ち話》ともう一人のグロス [長門佐季]	50
調査研究の推進	52
外部資金の活用	52
外部委員等就任	53
運営・管理報告	
概況(沿革・所掌事務・施設の状況)	54
PFI 事業の概要	54
収入・支出の状況	54
関係法規	55
組織	56
職員一覧	57

あいさつ

『神奈川県立近代美術館 2022 年度年報』を刊行いたします。

2022 年度も前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行の波に繰り返し襲われることになりました。緊急事態宣言による行動制限は課せられませんでした。感染法上の位置づけは変わらず、屋内ではマスクの着用が推奨されました。そうしたなかで、当館ではオンラインを取り入れた仕事が日常化し、オンラインや事前予約制によるイベントを開催するなど、デジタル技術の活用度が高まりました。美術の世界でも一時期「NFT (Non-Fungible Token : 非代替性トークン)」が現代美術の表現のひとつとして話題になり、高度にデータ化された情報が作品として扱われるようにもなりました。最初こそ衝撃であったものの、いつのまにか日常の一齣になりつつあるように思います。かつてドストエフスキーが指摘したように「人間はどんな逆境にも慣れてしまうものなのだ。」ということかもしれません。

しかし、そうした日常の慣れを断ち切り、感性をまるごと、批判的に刷新してくれるのが芸術表現です。そして、そのとき、それを扱う美術館の展示活動の持続性を保証してくれるのは、コレクションにほかなりません。

その視点から一年を回顧するとき、葉山館では「生誕 100 年 朝倉 摂」、「手跡をたどる 特集：中尾 誠」、「内藤 礼 すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している 2022」、「横尾龍彦 瞑想の彼方」、「ジョルジュ・ルオーの銅版画」、鎌倉別館では「生誕 110 年 松本竣介／小企画：堀江 栞—触れえないものたちへ」、「これってさわれるのかな？—彫刻に触れる展覧会—」、「美しい本—湯川書房の書物と版画」が浮かびあがってきます。「生誕 100 年 朝倉 摂」は、朝倉摂の新発見の初期日本画の一部が当館に所蔵されたことが企画のきっかけとなりました。同時開催の「手跡をたどる 特集：中尾 誠」展も中尾誠作品などが寄贈されたことが背景にあります。「内藤 礼 すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している 2022」では、所蔵作品の《恩寵》を中心に、そのサイト・スペシフィック性を鎌倉から葉山に切り替え、さらに新作を追加し、新しいヴァージョンへとアップデートされました。横尾龍彦は当館との地縁もあり、多くの重要作品がすでに所蔵されていました。「ジョルジュ・ルオーの銅版画」は同時開催の横尾龍彦展と対話する性格があり、鎌倉別館での堀江栞作品の小企画は、当館所蔵の松本竣介作品との現代作家との対話の試みでした。所蔵作品の彫刻を活かした「これってさわれるのかな？—彫刻に触れる展覧会—」は、いっさいケースを使用せず、障がいの有無にかかわらず、彫刻を触り味わってもらうことを目指しました。特別参加となった北川太郎氏のワークショップは台風で中止を余儀なくされましたが、彼の展示作品はすべて素手で触ることができ触察の可能性を大きく広げました。「美しい本—湯川書房の書物と版画」は湯川書房という究極の美本の出版を目指した出版活動の紹介であり、展示物は柄澤齊作品を除いてすべて個人コレクターからの寄贈によるものでした。改めて収集保存の大切さを思います。野崎道雄氏からのまとまったコレクション寄贈は、昨年度の特記すべきものでした。

葉山館での企画展「アレック・ソス Gathered Leaves」は、全展示室を使用しての初めて写真による個展でした。夏休みの期間と重なり多くの来館者に恵まれました。そのあとに内藤礼作品のコレクション展示に合わせて「マン・レイと女性たち」展が開かれました。写真だけでなく、むしろ画家を目指した作家の多彩な才能を、同時代を生きた才能豊かな女性たちとの関係を浮きあがらせながら紹介しました。そして「特集：マン・レイと日本」を巡回展にさらに追加し、当館コレクションの宮脇愛子作品も紹介しました。連続講演会「マン・レイとその時代」も同展を補足するものでした。別館では、現代を生きる才能に焦点を合わせ、「沖 潤子 さらにできるもの」展を開催し、現代における刺繍の大胆な造形の可能性を多くの方に味わっていただけました。

最後になりましたが、当館の活動に日頃よりご理解とご協力を賜っている関係各位に心より謝意を表します。

2023年12月

神奈川県立近代美術館長
水沢 勉

展覧会活動

2022(令和4)年度展覧会 会期・観覧者数一覧

	展覧会名	会期	日数	観覧料			観覧者数 [人]			合計	巡回先
							有料	無料	うち 中学生 以下		
葉山館 企画展	奥谷 博—無窮へ	[2/12] 4/1 4/3	3日 (45日)	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	375 (3,351)	223 (1,340)	22 (201)	598 (4,691)	高知県立美術館	
	生誕100年 朝倉 摂	4/16 6/12	50日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	8,511	2,365	272	10,876	練馬区立美術館、福島県立美術館	
	アレック・ソス Gathered Leaves	6/25 10/10	95日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	20,888	3,492	1,141	24,380		
	マン・レイと女性たち 特集：マン・レイと日本	10/22 1/22	76日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	9,841	2,550	378	12,391	Bunkamura ザ・ミュージアム、長野県立美術館、新潟市美術館	
	横尾龍彦 瞑想の彼方	2/4 3/31 [4/9]	48日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	3,541	1,068	152	4,609	北九州市立美術館、埼玉県立近代美術館	
小計			272日			43,156	9,698	1,965	52,854		
葉山館 コレクション展	てあと 手跡をたどる 特集：中尾 誠	4/16 6/12	50日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	8,795	2,365	272	11,160		
	内藤 礼 すべて動物は、世界の内に ちょうど水の中に水があるように 存在している 2022	10/22 1/22	76日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	10,980	2,550	378	13,530		
	ジョルジュ・ルオーの銅版画	2/4 3/31 [4/9]	48日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	3,743	1,131	152	4,874		
小計			174日			23,518	6,046	802	29,564		
鎌倉別館	山口勝弘展 『日記』(1945-1955)に見る	[2/12] 4/1 4/17	15日 (57日)	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	520 (1,379)	271 (720)	14 (210)	791 (2,099)		
	生誕110年 松本竣介 小企画：堀江 栞 —触れえないものたちへ	4/29 5/29	27日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	3,124	952	72	4,076		
	コレクション展 これってさわられるのかな？ —彫刻に触れる展覧会—	6/11 9/4	75日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	2,029	1,418	785	3,447		
	沖 潤子 さらけでるもの	9/17 1/9	96日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	4,827	1,573	352	6,400		
	コレクション展 美しい本 —湯川書房の書物と版画	1/21 3/31 [4/16]	60日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	3,197	815	203	4,012		
小計			273日			13,697	5,029	1,426	18,726		
合 計 [13 展覧会]						80,371	20,773	4,193	101,144		

※「奥谷 博—無窮へ」および「山口勝弘展 『日記』(1945-1955)に見る」の会期は2022.2/12~4/17。

3/31以前の日数、観覧者数については昨年度の年報を参照。()内は昨年度と今年度の合計の日数と観覧者数。

※「横尾龍彦 瞑想の彼方」および「ジョルジュ・ルオーの銅版画」の会期は2023.2/4~4/9。

※「コレクション展 美しい本—湯川書房の書物と版画」の会期は2023.1/21~4/16。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため、基本的な感染防止対策を徹底した上で入館に係る事前予約制を止めて通常開館とし、一定の人数を超えた場合は入場制限を実施した。

葉山館

770

生誕100年 朝倉 摂

Setsu Asakura: A Centennial Retrospective

画家・舞台美術家として活躍した朝倉摂の全貌に迫る、初めての本格的な回顧展である。彫刻家・朝倉文夫の長女として東京・谷中に生まれた朝倉は、17歳のときから日本画家・伊東深水に学び、モダンな人物像を洗練された色彩感覚で描き出し、若くしてその才能を認められた。戦後は新制作協会に所属し、パブロ・ピカソやベン・シャーンなど海外作家の研究を通して、新しい絵画表現を模索した。炭鉱や漁村の労働者に取材を重ね、60年安保闘争などの社会問題に取り組む中で、演劇やデザインなど多様なジャンルの芸術家との共同制作に可能性を見出し、60年代半ば以降は舞台美術へと活動の比重を移していった。本展では、これまでほとんど知られていなかった絵画作品40点余りと素描に加え、舞台美術の模型やデザイン画、資料、絵本原画を含む計約300点を展示し、その多彩な活動の意義を再考した。

主催：神奈川県立近代美術館、東京新聞
助成：公益財団法人 ポーラ美術振興財団
会期：4月16日(土)～6月12日(日)
場所：展示室1・2・3a・4
休館日：月曜日
開催日数：50日
出品総点数：274点(巡回展318点)
総観覧者数：10,876人
担当学芸員：西澤晴美、菊川亜騎 広報：鈴木彩乃
巡回先：練馬区立美術館、福島県立美術館

関連企画

- 1) ゲスト・トーク+絵本の朗読 6月4日(土)
話し手：富沢亜古(俳優)、聞き手：水沢 勉
- 2) オンライン館長トーク 4月30日(土)話し手：水沢 勉
- 3) 担当学芸員によるギャラリートーク 5月21日(土)
- 4) 先生のための特別鑑賞の時間 5月28日(土)



ポスター



会場風景1

撮影：内田亜里



会場風景2

撮影：内田亜里

カタログ

サイズ：22.7 × 17.6cm、280ページ、販売価格：2,750円（税込）
書名：朝倉摂の見つめた世界 絵画と舞台と絵本と
執筆：富沢亜古、水沢 勉、野地耕一郎（泉博古館東京・館長）、児島 薫（実践女子大学教授）、関 直子（早稲田大学大学院教授）、菊屋吉生（山口大学名誉教授、元山口県立美術館学芸員）、谷川俊太郎（詩人）、渡辺 保（演劇評論家）、西澤晴美、菊川亜騎、真子みほ（練馬区立美術館主任学芸員）、増渕鏡子（福島県立美術館専門学芸員）

デザイン：佐々木暁

編集：西澤晴美、真子みほ、増渕鏡子、福岡優子（青幻舎）

翻訳：小川紀久子

プリンティングディレクション：高智之（山田写真製版所）

プリンティングコーディネーション：板倉利樹（山田写真製版所）

プロダクトマネージメント：山岸 充（山田写真製版所）

著：神奈川県立近代美術館、練馬区立美術館、福島県立美術館

発行者：片山 誠

発行所：株式会社青幻舎

印刷・製本：山田写真製版所

目次

ごあいさつ

「生誕100年 朝倉 摂」展によせて（富沢亜古）

現在を生きる—「生誕100年 朝倉 摂」展開催に当たって（水沢 勉）

1章 画家としての出発—リアルの自覚

女性とモダン 1941-1945

裸婦とキュビズム 1946-1955

[コラム]

朝倉摂の戦中戦後—ただ前だけを向いて（野地耕一郎）

絵の裏から出てきた絵（西澤晴美）

摂と響子、姉妹の芸術家—朝倉文夫を父として（菊川亜騎）

2章 日本画と前衛—リアルの探求

社会的テーマへの取り組み 1952-1959

絵画をこえて 1960-1965

[コラム]

常磐炭田を描く（増渕鏡子）

朝倉摂《部屋》（1957年）について（児島 薫）

朝倉摂がとらえた都市空間（関 直子）

朝倉摂—社会と人間を見つめ続けた造形画家（菊屋吉生）

3章 舞台美術の世界—イメージは発見

[コラム]

懐かしさ（谷川俊太郎）

彼岸花と蝶（渡辺 保）

4章 挿絵の仕事—余白を造形すること

[エッセイ]

朝倉 摂 生きている絵、限らない舞台（西澤晴美）

朝倉 摂のリアリズム 60年安保闘争をはさんで（増渕鏡子）

朝倉 摂の挿絵 小説、絵本、舞台との関わり（真子みほ）

年譜

参考作品

主要参考文献

作品リスト

関連記事

▼展評・解説など

・西澤晴美「生誕100年 朝倉 摂展 注目の1点 上 戦時下に描いた日本画」『東京新聞』2022年4月20日、18面

・藤田一人「美術評 生誕100年 朝倉 摂展 戦後の葛藤と揺らぎを体現」『東京新聞』2022年4月21日夕刊、3面

・西澤晴美「生誕100年 朝倉 摂展 注目の1点 中 工場、漁村など取材し描く」『東京新聞』2022年4月27日、16面

・西澤晴美「生誕100年 朝倉 摂展 注目の1点 下 個人よりも共同制作へ」『東京新聞』2022年5月4日、14面

・窪田直子「生誕100年 朝倉 摂展 戦後社会の矛盾見える 初期の日本画家時代に光」『日本経済新聞』2022年5月14日、44面

・平林由梨「生誕100年 朝倉 摂展 一本芯の通った表現」『産経新聞』2022年5月18日、4面

・山根聡「かながわ美の手帖 県立近代美術館葉山「生誕100年 朝倉 摂」展 日本画から始まり舞台芸術も変える」『毎日新聞』2022年5月23日、20面

・高橋円「朝倉 摂の創作活動の全貌 生誕100年 県立近代美術館葉山で回顧展」『神奈川新聞』2022年5月26日、15面

・石川健次「Art Scene 生誕100年 朝倉 摂展」『サンデー毎日』2022年5月29日号（第101巻第26号）、p.75

・大野拓生「ジャンルを超えて 舞台美術の原点 生誕100年朝倉 摂展@神奈川県立近代美術館葉山 創作活動はじまりは日本画」『神奈川新聞』2022年6月7日、3面

・黒沢綾子「産経書房 トレンドを読む 展覧会を深堀する読書 『朝倉 摂の見つめた世界 絵画と舞台と絵本と』」『産経新聞』2022年6月12日、22面

・瀬戸口郁「生誕100年 朝倉 摂展！」『悲劇喜劇』2022年7月号（No.817）、pp.54-57

・真子みほ「生誕100年 朝倉 摂展 はじめての本格的回顧展」『新美術新聞』2022年6月21日（No.1603）、p.1

・編集部「朝倉 摂の日本画時代」『芸術新潮』2022年7月号（第73巻第7号）、pp.102-105

・増渕鏡子「朝倉 摂の群像表現～ピカソから学んだもの」『美術の窓』2022年10月号（No.469）、pp.76-77

・編集部「生誕100年 朝倉 摂展」『桑沢デザイン研究所同窓会ニュース』2023年4月28日（No.190）、p.9

▼展覧会紹介：4紙(8回)／9誌(12回)

▼情報掲載：4紙(28回)／10誌(15回)

▼テレビ

・NHK Eテレ「日曜美術館 アートシーン」2022年5月29日放送

・TOKYO MX「わたしの芸術劇場」2022年8月5日放送

・NHK Eテレ「日曜美術館 朝倉 摂がいた時代」2022年10月9日放送

▼ラジオ：1件

▼ウェブ

・福島夏子「つねに“最新”の自分を求めて。朝倉 摂の日本画から舞台美術までを総覧する大回顧展「生誕100年 朝倉 摂」レポート」『Tokyo Art Beat』2022年4月21日

<https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/setsu-asakura-2022-report>

・田中聡「【レビュー】日本画、挿絵、舞台美術……「今」を生きたアーティストの全貌を紹介—「生誕100年 朝倉 摂」展 神奈川県立近代美術館 葉山で6月12日まで」『美術展ナビ』2022年5月17日

<https://artexhibition.jp/topics/news/20220516-AEJ805617/>

・松本雅延「激動の時代を生きた朝倉 摂の仕事、美術が示す未来、越後妻有の芸術祭 今週見るべきアート展」『The New York Times Style Magazine』2022年5月27日

<https://www.tjapan.jp/art/17542110?page=1>

ほか11件

受賞

第64回全国カタログ展図録部門 経済産業省商務情報政策局長賞 金賞



カタログ

葉山館

771

コレクション展 ^{てあと}手跡をたどる 特集：中尾 誠

Tracing the Artist's Hand: Featuring NAKAO Makoto from the Museum Collection

近年収蔵・修復した作品の中から、マチエールに注目してその味わいや奥行きが感じられる作品を選び、有馬さとえ、難波田龍起、川端実、野見山暁治、田中岑、吉田克朗、淀井彩子、鶴見厚子による絵画 12 点、若林奮の彫刻 3 点、そして同時開催の「生誕 100 年 朝倉 摂」展にあわせて朝倉響子のブロンズ像 3 点を展示した。特集として、1964 年から晩年まで北鎌倉にアトリエを構え、パウル・ツェランに触発されながら、「隔たりの消息」をテーマに独自の記号的な抽象絵画を描いた中尾誠を取り上げ、昨年度収蔵した各時期の代表作 7 点を通してその画業を紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：4月16日(土)～6月12日(日)
場所：展示室 3b
休館日：月曜日
開催日数：50 日
出品総点数：25 点
総観覧者数：11,160 人
担当学芸員：橋口由依 広報：鈴木敬子

関連企画

- 1) オンライン館長トーク 4月30日(土)話し手：水沢 勉
- 2) 担当学芸員によるオンライントーク 5月15日(日)

関連記事

- ▼展覧会紹介：1誌(2回)
- ▼情報掲載：4誌(8回)



会場風景 1

撮影：内田亜里



会場風景 2

撮影：内田亜里

葉山館

772

アレック・ソス Gathered Leaves

Alec Soth: Gathered Leaves

アメリカの現代写真を牽引するアレック・ソスの日本の美術館で初の個展。ミネソタ州ミネアポリスを拠点に、緻密なコンセプトに基づいたプロジェクトとして国内外への旅を重ねて自然や人々をとらえたソスの作品は国際的に高い評価を得てきた。ウォルト・ホイットマンの詩集『草の葉 (Leaves of Grass)』(初版 1855 年) の一節からタイトルを採り、アメリカを題材とする 5 つのシリーズ——〈Sleeping by the Mississippi〉、〈NIAGARA〉、〈Broken Manual〉、〈Songbook〉、最新作 〈A Pound of Pictures〉——で構成される約 80 点を紹介し、イメージとコンセプトの連関を探る。あわせて、ソスについてのドキュメンタリー映画『Somewhere to Disappear』(2010 年) を展示室 4 で参考上映した。

主催：神奈川県立近代美術館
協力：LOOCK Galerie, Berlin、twelvebooks、Mas Films
会期：6月25日(土)～10月10日(月・祝)
場所：展示室 1・2・3・4
休館日：月曜日(7月18日、9月19日、10月10日を除く)
開催日数：95 日
出品総点数：78 点
総観覧者数：24,380 人
担当学芸員：三本松倫代、橋口由依 広報：吉田有璃子

参考上映

映画『Somewhere to Disappear』(2010年、57分)
監督：ロール・フラマリオン、アルノー・ウィッテンホーヴ
製作：マス・フィルムズ
所蔵・協力：マス・フィルムズ
日本語字幕：井上邦香
場所：展示室 4
上映開始時刻：毎日午前 10 時から午後 4 時の 00 分 (17 時終了)
定員：25 席 (平日入れ替えなし、土日祝は整理券配布による入場入替制)

関連企画

- 1) アーティストトーク 7月16日(土) 講師：アレック・ソス (写真家)、ゲスト：畠山直哉 (写真家)
- 2) 館長によるトーク 7月24日(日) 話し手：水沢 勉
- 3) 担当学芸員によるトーク 8月6日(土)、9月3日(土)
- 4) 先生のための特別鑑賞の時間 7月23日(土)



ポスター



会場風景 1

撮影：白井晴幸



会場風景 2

撮影：白井晴幸

カタログ

サイズ：18.9 × 12.7cm、96 ページ、販売価格：1,100円(税込)

編集：神奈川県立近代美術館

執筆：アレック・ソス、水沢 勉、三本松倫代

デザイン：川村格夫 (ten pieces)

翻訳：キャサリン・リーランド、三本松倫代

制作：瞬報社写真印刷株式会社

発行：神奈川県立近代美術館

裏表紙の図版は 2 種類あり

目次

あいさつ (水沢 勉)

Foreword (Mizusawa Tsutomu)

アレック・ソスへの書面によるインタビュー、2022年5月12日(聞き手：三本松倫代)

Written Interview to Alec Soth, May 12, 2022 (by Sanbonmatsu Tomoyo)

図版 / Plates

葉の山に吹き寄せた葉たちについて (三本松倫代)

Notes on Gathered Leaves at the Mountain of Leaves (Sanbonmatsu Tomoyo)

略歴 / Biography 個展・二人展、グループ展、主なパブリック・コレクション・

出版物・主要邦語文献、Biography / Publications

出品リスト / List of Works

関連記事

▼展評・解説など

- ・「ART ロードトリップでとらえた、現代アメリカの叙情と詩情『アレック・ソス Gathered Leaves』」『Pen』2022年7月号、pp.139-140
- ・「Art News Exhibition アレック・ソスのアメリカ 人と風景への旅」『芸術新潮』2022年8月号、pp.86-89
- ・タカザワケンジ「美術評 「アレックス・ソス」 個展 「撮る」から「編集する」へ 流れありあり」『東京新聞』2022年7月29日夕刊、3面
- ・「ARTIST INTERVIEW ALEC SOTH」『美術手帖』2022年10月号、pp.180-195
- ・山根聡「かながわ美の手帖 県立近代美術館 葉山館 企画展「アレック・ソス Gathered Leaves」 路上旅行を重ねて 写真の本質を探究」『産経新聞』2022年9月26日、22面
- ・竹内万里子「見聞録 写真 人間見つめ肯定し続ける アレック・ソス展」『神奈川新聞』2022年9月29日、15面

▼展覧会紹介：2紙(2回) / 15誌(15回)

▼情報掲載：7紙(46回) / 8誌(21回)

▼テレビ

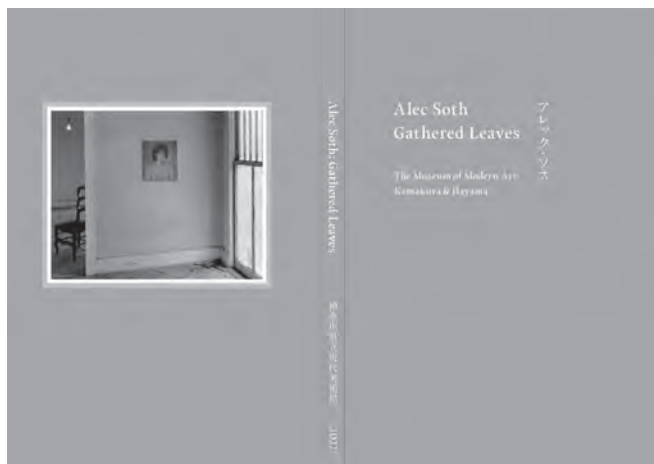
- ・BS フジ「旅人のカメラ」2022年9月13日

▼ラジオ：1 件

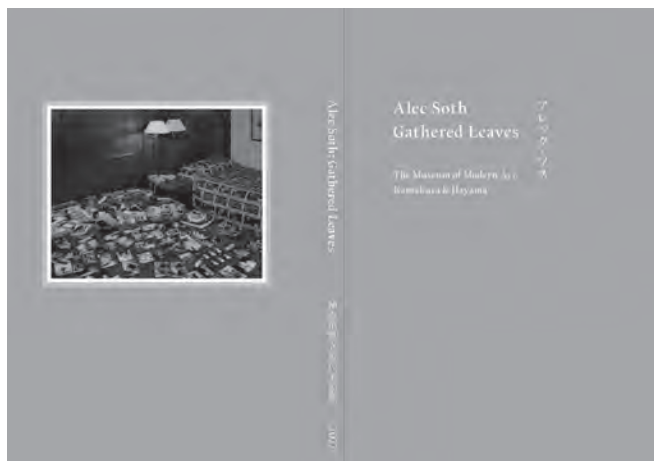
▼ウェブ

- ・浅見悠吾「アメリカ現代社会の物語を示唆する写真。神奈川県立近代美術館 葉山「アレック・ソス Gathered Leaves」レポート」『Tokyo Art Beat』2022年7月8日
https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/alec-soth-gathered-leaves_report_202207
- ・田中聡「【レビュー】「リアル」の向こうに何があるのか——「アレック・ソス Gathered Leaves」展 神奈川県立近代美術館 葉山」『美術展ナビ』2022年7月26日
<https://artexhibition.jp/topics/news/20220714-AEJ893151/>
- ・飯沢耕太郎「artscape レビュー アレック・ソス Gathered Leaves」『artscape』2022年09月15日号
https://artscape.jp/report/review/10179093_1735.html

ほか 25 件



カタログ (裏表紙 1)



カタログ (裏表紙 2)

葉山館

773

マン・レイと女性たち 特集：マン・レイと日本

Man Ray and the Women: Featuring Man Ray and Japan

20世紀を代表する芸術家、マン・レイは、1920年代～30年代に成熟期を迎えつつあった写真という新しいメディアの可能性を追求した。ニューヨーク・ダダの洗礼を受け、パリに移り、自らが参加したシュルレアリスム運動の活動記録や作品写真、恋人や友人たちのポートレート、ファッション写真などを手がけるが、多岐にわたるその作風は、レイヨグラフィやソラリゼーションのような実験的な技法と相まって、独創的な表現世界を生みだした。本展は、マン・レイが捉えた「女性たち」に光を当て、240点余の写真のほか、オブジェ、絵画、版画、資料とあわせて創作の軌跡を追った。

国内巡回の最終会場となる当館では、特集展「マン・レイと日本」を併設し、日本におけるマン・レイの受容をたどった。戦前、日本のシュルレアリスム運動を牽引した瀧口修造や山中散生が海外のシュルレアリストと交わした書簡などの資料を展覧し、戦後については、瀧口の導きで渡欧した彫刻家、宮脇愛子とマン・レイの交流を中心に紹介した。

会 期：10月22日(土)～2023年1月22日(日)

場 所：マン・レイと女性たち 展示室1・2・3、
特集：マン・レイと日本 展示室4

休 館 日：月曜日(1月9日を除く)、
12月29日～2023年1月3日

開 催 日 数：76日

総観覧者数：12,391人

担当学芸員：朝木由香、靱山昌夫 広報担当：鈴木彩乃

マン・レイと女性たち

主 催：神奈川県立近代美術館

監 修：巖谷國士(シュルレアリスム研究、仏文学者、美術批評家、明治学院大学名誉教授)

マリオン・メイエ(20世紀美術研究、国際マン・レイ協会会長)

特別協力：国際マン・レイ協会

後 援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ
日本

協 力：日本航空

企画協力：アートプランニングレイ

出品総点数：261点

巡 回 先：Bunkamura ザ・ミュージアム、長野県立美術館、
新潟市美術館

特集：マン・レイと日本

主 催：神奈川県立近代美術館

協 力：慶應義塾大学日吉メディアセンター

出品総点数：作品14点、資料116点

関連企画

1) 講演会

神奈川県立社会教育施設公開講座「マン・レイとその時代」

11月5日(土)：小池一子(クリエイティブ・ディレクター)

11月26日(土)：巖谷國士(本展監修者/仏文学者/美術批評家/明治学院大学名誉教授)

12月10日(土)：青柳いつみこ(ピアニスト・文筆家/大阪音楽大学名誉教授)

12月17日(土)：飯沢耕太郎(写真評論家)

12月25日(日)：光田由里(美術評論家/多摩美術大学教授)

※各回事前予約制、定員60名、有料(1,000円)

2) 広報連携

① DIC 川村記念美術館・当館担当学芸員によるギャラリートーク
2022年11月20日(日) 話し手：杉浦花奈子(DIC川村記念美術館学芸員)、朝木由香 会場：DIC川村記念美術館展示室 ※事前予約制、無料

② 2022年12月4日(日) DIC 川村記念美術館・当館担当学芸員によるギャラリートーク 話し手：杉浦花奈子、朝木由香 会場：当館講堂 ※事前予約制、無料



ポスター

マン・レイと女性たち カタログ

サイズ：21.6×14.8cm、272ページ、販売価格：2,750円(税込)、
ISBN：ISBN978-4-582-20722-4

監修・著：巖谷國士

編集協力：豊田奈穂子（アートプランニングレイ）、深井大門（アートプランニングレイ）、国際マン・レイ協会

装幀・デザイン：中村香織（コバンダ）

印刷：大日本印刷会社

発行：株式会社平凡社

はじめに

序にかえて マン・レイの女性像

第1章 ニューヨーク

第2章 パリ

第3章 ハリウッド

第4章 パリふたたび

[コラム]

パリガイド（1921-1940/1951-1976）

マン・レイの映画

人名解説と索引

年譜

参考文献

作品リストとクレジット

マン・レイ、マリオン・メイエ、国際マン・レイ協会—ある友情の歴史
後記

特集：マン・レイと日本 冊子

タイトル：マン・レイと日本

サイズ：A5（20.9×14.5cm）、12ページ、2色／1色、無料配布

編集・執筆：朝木由香

翻訳：朝木由香、笠井裕之（慶應義塾大学）

デザイン：田辺智子デザイン室 田辺智子

撮影：佐治康生

印刷：株式会社野毛印刷社

発行：神奈川県立近代美術館

発行日：2022年10月22日

助成：JSPS 科研費（課題番号 19K00147）

目次

はじめに

1. 戦前の受容

2. 瀧口修造と前衛映画

3. 海外超現実主義作品展

4. 詩画集の夢

5. 戦後、フェルー通りのアトリエで—宮脇愛子

6. 『自由な手』ふたたび

書簡資料：マン・レイ差出／山中散生宛書簡、瀧口修造差出／ローランド・
ベンローズ宛書簡、瀧口修造差出／マン・レイ宛書簡



冊子

関連記事

▼展評・解説など

- ・沙月樹京「マン・レイ 時代の最先端をゆく女性を写した先鋭的な写真」『トーキングヘッド叢書』No.92、2022年11月7日、pp.10-11
- ・朝木由香「マン・レイ 越境する光」『版画芸術』198号、2022年11月、pp.104-109
- ・鈴木彩乃「今月のアート情報：マン・レイの眼差しがとらえた『女性たち』」『小原流挿花』、2022年11月号、p.48
- ・山根聡「美の手帖：『対等』なる人間性 日本へ至った流れ」『産経新聞』2023年1月9日、神奈川版、18面
- ・井上晋治「マン・レイの写真表現たどる」『読売新聞』2023年1月12日朝刊、19面
- ・朝木由香「マン・レイ、その越境する光—『マン・レイと女性たち』展を振り返る」『神奈川大学評論』102号、2023年3月、pp.167-171

▼展覧会紹介：1紙(1回)／14誌(14回)

- ・「モードの潮流 Vol.14」『婦人画報』2022年12月28日、pp.21-24

▼情報掲載：7紙(26回)／13誌(34回)

▼ラジオ：1件

- ・「湘南ビーチ FM DAILY ZUSHI HAYAMA」（朝木由香、聞き手：森川いつみ）2022年12月13日放送

▼ウェブ

- ・「IMA ONLINE」2022年10月24日
<https://imaonline.jp/>
- ・豊田奈穂子「展覧会マン・レイと女性たち」「web 太陽」2022年11月18日
<https://webtaiyo.com/art/6312/>
- ・「Lula Japan web」2022年11月22日
<https://www.lulamag.jp>

ほか6件



会場風景1 マン・レイと女性たち



会場風景2 特集：マン・レイと日本

葉山館

774

コレクション展 内藤礼 すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している 2022

NAITO Rei, Tout animal est dans le monde comme de l'eau à l'intérieur de l'eau, 2022: From the Museum Collection

2009年に鎌倉館での個展「内藤礼 すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している」で発表されたサイトスペシフィック作品《恩寵》は、展覧会後に当館へ収蔵され、平家池に臨むテラスに鎌倉館の閉館（2016年）まで常設された。その後、葉山館での作品の在り方について検討を重ねてきた作家が、海と中庭に面した開口部のある展示室3bに《恩寵》を再生させるとともに、個展当時の作品や新作とあわせて、あたらしい“すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している”を生み出したコレクション展。作品空間は自然光のみで体験された。

主 催：神奈川県立近代美術館

会 期：10月22日(土)～2023年1月22日(日)

場 所：展示室3b

休 館 日：月曜日(1月9日を除く)、12月29日～2023年1月3日

開催日数：76日

出品総点数：9点

総観覧者数：13,530人

担当学芸員：三本松倫代 広報：鈴木敬子

関連企画

- 1) 館長によるトーク 11月12日(土) 話し手：水沢 勉
- 2) 担当学芸員によるトーク 10月29日(土)、11月27日(日)

関連記事

▼展評・解説など

- ・「文化往来 内藤礼「死生観」映す」『日本経済新聞』2023年1月12日夕刊、10面（2022年12月28日Web版）

▼展覧会紹介：1紙(1回)／2誌(3回)

▼情報掲載：6誌(12回)

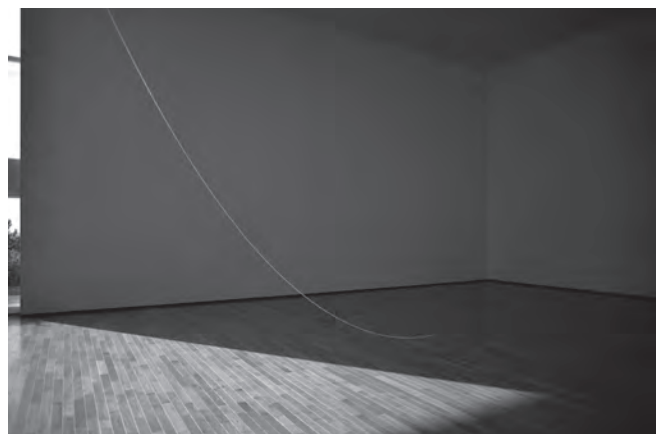
▼ウェブ

- ・新麻記子「葉山の自然と調和する繊細な作品たち。内藤礼のコレクション展が開催中」『イロハニアート』2022年11月29日
<https://irohani.art/event/10616/>
ほか3件



会場風景 2

撮影：畠山直哉



会場風景 1

撮影：畠山直哉



会場風景 3

撮影：畠山直哉

葉山館

775

横尾龍彦 瞑想の彼方

Yokoo Tatsuhiko: Beyond the Realm of Meditation

横尾龍彦は1928年、福岡県福岡市に生まれ、東京美術学校（現・東京藝術大学）日本画科を卒業した。1960年代に油彩へ転向して作家活動を開始し、聖書などに着想を得た幻想絵画により国内外での評価を確立した。1976年から4年間は逗子市山の根に住み、ルドルフ・シュタイナーの研究會に参加、鎌倉の三雲禪堂に参禅した。ドイツに本格的な拠点を設けた1980年以降は制作に瞑想を取り入れ、書に通じる抽象絵画へと大きく画風を変化させた。本展は美術館における初めての回顧展として、初期の幻想絵画から後期の抽象絵画まで、画風の変化をたどる5章の構成により横尾の画業を展覧した。また、1960年代から晩年まで続いた聖像彫刻の制作や、1970年代以降の新聞・雑誌の挿絵制作など、絵画制作以外の仕事も資料を通して紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館

協賛：株式会社イトーキ

特別協力：公益財団法人日動美術財団

会期：2023年2月4日(土)～4月9日(日)

場所：展示室1・2・3a・4

休館日：月曜日

開催日数：48日

出品総点数：作品93点、資料54点(巡回展 作品93点、資料40点)

総観覧者数：4,609人

担当学芸員：橋口由依、西澤晴美 広報：鈴木彩乃

巡回先：北九州市立美術館、埼玉県立近代美術館

関連企画

- 1) 館長によるトーク 2023年2月19日(日) 話し手：水沢 勉
- 2) 担当学芸員によるトーク 2023年3月5日(日)
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 2023年2月25日(土)



ポスター



会場風景1

撮影：大谷一郎



会場風景2

撮影：大谷一郎

カタログ

サイズ：26.0 × 19.0 cm、192 ページ、販売価格：2,000 円（税込）

執筆：水沢 勉、小松健一郎（北九州市立美術館）、橋口由依、菊地真央（埼玉県立近代美術館）、藤木隆男（藤木隆男建築研究所）、酒井忠康（世田谷美術館長）

編集：北九州市立美術館（小松健一郎、山下理恵）、神奈川県立近代美術館（橋口由依、西澤晴美）、埼玉県立近代美術館（菊地真央、平野到）

翻訳：キャサリン・リーランド、マーレン・ゴツィック

デザイン：山下雅士（sleepwalk）

印刷・製本：光村印刷株式会社

発行日：2022年12月17日

発行：北九州市立美術館、神奈川県立近代美術館、埼玉県立近代美術館

目次

境域を踏み越える。（水沢 勉）

彼方より吹く風—横尾龍彦の内的世界（小松健一郎）

第1章 北九州からヨーロッパ、東京へ

〔コラム〕若松とのつながり

第2章 悪魔とエロスの幻想

〔コラム〕挿絵の仕事

第3章 内なる青を見つめて

〔コラム〕種村季弘とドイツ移住

第4章 東と西のはざままで

〔特別コラム〕「SMILE」と「にらみ」 横尾先生のこと／サレジオのころ（藤木隆男）

〔コラム〕聖像制作

第5章 水が描く、風が描く、土が描く

〔コラム〕秩父アトリエ

回想の横尾龍彦（酒井忠康）

インタビュー：横尾嘉子（橋口由依編）

横尾龍彦の技法（橋口由依）

「メディテーション芸術」の開示—横尾龍彦の晩年における活動について（菊地真央）

横尾龍彦年譜（小松健一郎編）

横尾龍彦関連文献一覧（小松健一郎編）

掲載作品および資料一覧

写真・画像提供

関連記事

▼展評・解説など

・平林由梨「アートの扉 横尾龍彦 アポカリプス 瞑想が生んだ躍動」『毎日新聞』2023年3月20日夕刊、3面

・藤島俊会「神奈川の文化時評 美術 東西に揺れ動いた創造 横尾龍彦展 横尾龍彦—瞑想の彼方」『神奈川新聞』2023年4月3日、15面

・志賀信夫「横尾龍彦 悪魔的幻視から瞑想的抽象へ」『ExtraART file.37』アトリエサード、2023年6月30日、pp.90-99

▼5誌（7回）

▼情報掲載：6紙（24回）／7誌（8回）

▼ラジオ：1件

・「湘南ビーチ FM DAILY ZUSHI HAYAMA」（橋口由依、聞き手：森川いつみ）2023年2月15日放送

▼ウェブ

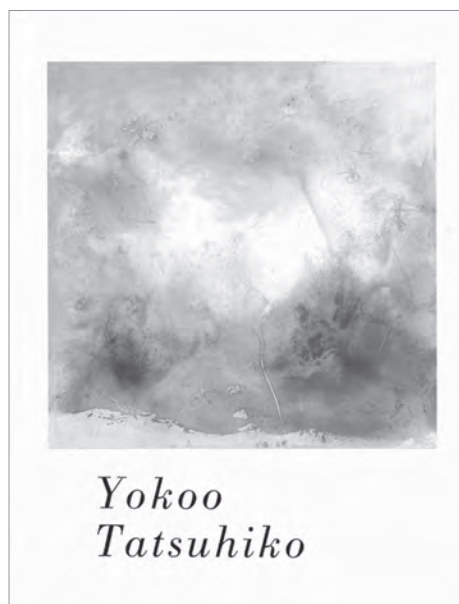
・小平信行「読者レポート 横尾龍彦 瞑想の彼方 神奈川県立近代美術館 葉山 | 神奈川県」『アイエム [インターネットミュージアム]』2023年3月7日

<https://www.museum.or.jp/report/110909>

・小川敦生「幻想から瞑想へ旅した画家・横尾龍彦。巡回中の初の回顧展（神奈川県立近代美術館 葉山など）をレビュー」『Tokyo Art Beat』2023年3月9日

<https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/tatsuhiko-yokoo-exhibition-review-202303>

ほか 9 件



葉山館

776

ジョルジュ・ルオーの銅版画

Copper Engravings by Georges Rouault from the Museum Collection

20世紀を代表するフランスの画家ジョルジュ・ルオーは、色彩の画家で知られる一方、モノクロームの重厚な版画でも傑作を生み出した。写真製版技法で原画を焼き付けた銅版の上に、描いては削ることを繰り返して作られた版画集『ミセレーレ』（1922-27年）はその代表的な作品のひとつ。人間の内奥を追求したルオーの深い精神性をたたえた『ミセレーレ』は、1912年の父の死と第一次世界大戦の悲劇をきっかけに制作を始め、約15年の歳月をかけて完成された。本展では、『ミセレーレ』全58点、キリストの受難を描いた版画集『パッション』（1936年）ほか、当館が収蔵するルオー作品をまとめて展覧した。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2023年2月4日(土)～4月9日(日)
場所：展示室 3b
休館日：月曜日
開催日数：48日
出品総点数：作品 69 点（一部展示替えあり）
総観覧者数：4,874 人
担当学芸員：長門佐季 広報：吉田有璃子

関連企画

- 1) 館長によるトーク 2023年2月19日(日) 話し手：水沢 勉
- 2) 担当学芸員によるトーク 2023年3月18日(土)
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 2023年3月11日(土)

関連記事

▼情報掲載：4誌(6回)



会場風景

撮影：大谷一郎

鎌倉別館

777

生誕 110 年 松本竣介 小企画：堀江 栞—触れえないものたちへ

MATSUMOTO Shunsuke: On the 110th Anniversary of His Birth/ [associated exhibition] HORIE Shiori: Toward the Unreachable

松本竣介の生誕 110 年を記念し、《橋（東京駅裏）》（1941 年）など当館コレクションを中心にその創作世界を展覧した。また、制作の傍ら竣介が妻・禎子と手がけた『雑記帳』（1936–37 年）に焦点をあて、鬘光や寺田政明、難波田龍起などの関連作家による挿画原画 30 点や、原稿のやり取りなどをめぐり文学者、画家たちと交わした書簡資料を展覧し、『雑記帳』編集の実相を紐解いた。また、竣介展とあわせて次代を担う日本画家、堀江栞を紹介した。動物や人物を描くことで、堀江が紡いできた「触れえないものたち」との対話の行方を、近作《後ろ手の未来》（2021 年）や新作《触れえないものたちへ》（2022 年）、素描などからたどった。

主 催：神奈川県立近代美術館

会 期：4月29日(金・祝)～5月29日(日)

休 館 日：月曜日

開催日数：27 日

出品総点数：生誕110年：松本竣介 作品56点、資料15件、映像

小企画：堀江 栞—触れえないものたちへ 作品
43点、資料4点

総観覧者数：4,076 人

担当学芸員：長門佐季（松本竣介展）、朝木由香（堀江 栞展）、

広報：八木めぐみ

関連企画

1) オンライン館長トーク 2023年5月14日(土) 話し手：水沢 勉



ポスター



会場風景 1

撮影：筒口直弘

小企画：堀江 栞——触れえないものたちへ 冊子
 タイトル：触れえないものたちへ
 サ イ ズ：25.7×14.0cm、8ページ、無料配布
 堀江 栞インタビュー
 編 集：朝木由香
 デザイン：栗原幸治（クリ・ラボ）
 制 作：株式会社 erA
 発 行 日：2022年4月29日
 発 行：神奈川県立近代美術館

生誕 110 年 松本竣介 関連記事

- ▼展評・解説など
 - ・「沈黙して『在る』人間の重さ 「堀江栞と松本竣介」 県立近代美術館鎌倉別館で企画展」『神奈川新聞』5月19日朝刊、15面
 - ・「美術館博物館 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館 生誕 110 年 松本竣介「立てる像」等代表作の絵画の他、雑誌編集者の側面も」『朝日新聞』4月26日夕刊、4面
 - ・堀尾真紀子「名画に会おう第146回 時代に屹立する 作品No.146 [松本竣介《立てる像》]」『クレスコ』2022年5月号 (No.254)、p.46 (口絵)
- ▼展覧会紹介：2誌(2回)
- ▼情報掲載： 2紙(7回)/5誌(7回)
- ▼テレビ：1件
 - ・NHK E テレ「日曜美術館 アートシーン」2022年5月15日放映

小企画：堀江 栞——触れえないものたちへ 関連記事

- ▼展評・解説・書評など
 - ・金子拓「本よみうり堂：堀江栞 声よりも近い位置」『読売新聞』2022年4月22日朝刊、11面
 - ・高橋咲子「アートの扉：堀江栞 後ろ手の未来# 2-6 それでも、手を伸ばす」『毎日新聞』2022年5月16日夕刊、3面
 - ・「沈黙して『在る』人間の重さ 堀江栞と松本竣介」 県立近代美術館鎌倉別館で企画展」『神奈川新聞』5月19日朝刊、15面
 - ・堀江栞「エッセー：不安な背中、あたたかな手」『文學界』2022年8月号 (第76巻8号)、pp.194-195
- ▼情報掲載：4誌(6回)
- ▼ウェブ
 - ・「小説丸 著者の窓：第16回 堀江栞『声よりも近い位置』」[インタビュー]、2022年5月26日



冊子



会場風景 2

撮影：筒口直弘

鎌倉別館

778

コレクション展 これってさわれるのかな？—彫刻に触れる展覧会—

Can I Touch This?: An Exhibition of Touchable Sculptures from the Museum Collection

ふだん美術館の展示室にある作品は、保存などの観点から手を触れないようお願いしている。しかし、ちょっとさわってみたいと思うことはあるのではないかな？ この展覧会では、コレクションの中からさわれる彫刻作品 24 点を選んで、「人のかたちにさわってみよう」、「浮彫にもさわってみよう」、「何をあらわしているのかな?」、「図形のようなかたちにさわってみよう」、「音をきいてみよう」という 5 つのコーナーに展示し、かたち、質感、温度など、対象に触れることによって得られる新鮮な感覚を楽しんでもらった。なお、作品保護と感染症対策のため、美術館で用意する手袋の着用をお願いした。また、展示ロビーでは彫刻家・北川太郎による素手で触れられる作品を特別出品した。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：6月11日(土)～9月4日(日)
休館日：月曜日(7月18日を除く)
開催日数：75日
出品総点数：26点(特別出品2点を含む)
総観覧者数：3,447人
担当学芸員：靱山昌夫、八木めぐみ 広報：八木めぐみ

関連企画

1) ワークショップ「石の家をつくろう」2022年8月13日(土) 北川太郎(彫刻家)、八木めぐみ、靱山昌夫【荒天のため中止】

関連記事

▼展評・解説など

- ・松沢奈々子「作品さわって 濃密に感じて 巨匠の彫刻 手触りは 鎌倉 どう遊ぶ? 木のおもちゃ 目黒 (目黒美術館)」『朝日新聞』2022年8月2日夕刊、3面
- ・靱山昌夫「コロナ禍の美術館における「触る」ことの意味」『神奈川県博物館協会会報』第94号、2023年3月25日、pp.11-14

▼展覧会紹介：4紙(4回)／1誌(1回)

▼情報掲載：2紙(15回)／8誌(14回)

▼ウェブ

- ・編集部「「作品にお手を触れるようお願いします」。神奈川県立近代美術館 鎌倉別館でロダンらの彫刻作品にさわれる展覧会が開催へ」『美術手帖』2022年5月17日
<https://bijutsutecho.com/magazine/news/exhibition/25572>
- ・「これってさわれるのかな?—彫刻に触れる展覧会—」『美術手帖』2022年6月11日
<https://bijutsutecho.com/exhibitions/10175>
- ・「これってさわれるのかな?」『青い日記帳』2022年9月1日
<http://bluediary2.jugem.jp/?eid=6712>

ほか2件



会場風景

鎌倉別館

779

沖潤子 さらけでるもの

OKI Junko: The Exposed

本展は、刺繍という手法を用いて独自の作品を制作する沖潤子の、美術館での初個展となった。母が遺した布や糸をきっかけに独学で刺繍を始めた沖は、衣類やバッグなどに刺繍した初期をへて、近年では絵画や彫刻といった領域を超えた作品を展開し、国内外で精力的に作品を発表している。本展では貴重な初期作品をはじめ、刺繍による代表作や本展のための新作などを通じて、その創作の全貌を展覧した。

主 催：神奈川県立近代美術館

特別協力：KOSAKU KANECHIKA

会 期：2022年9月17日(土)～2023年1月9日(月・祝)

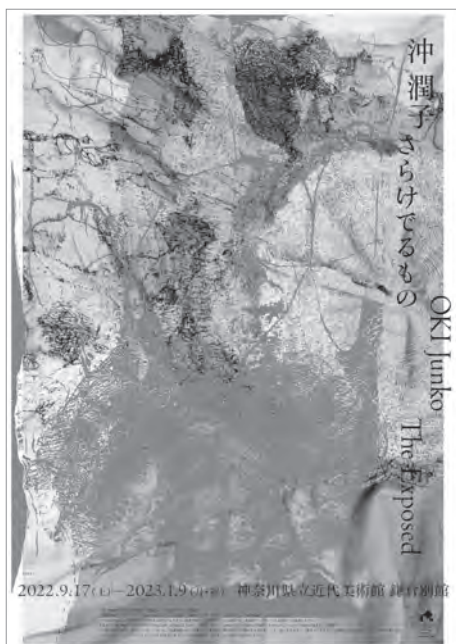
休 館 日：月曜日(9月19日、10月10日、2023年1月9日を除く)、
12月29日～2023年1月3日

開催日数：96日

出品総点数：72点

総観覧者数：6,400人

担当学芸員：高嶋雄一郎、菊川亜騎 広報：八木めぐみ



ポスター



会場風景 1

撮影：永禮 賢



会場風景 2

撮影：永禮 賢

カタログ

サイズ：21.0 × 14.8cm、208ページ、販売価格：1,500円（税込）

執筆：水沢勉、高嶋雄一郎

編集：高嶋雄一郎、菊川亜騎

デザイン：鈴木聖

印刷・製本：瞬報社写真印刷株式会社

発行：神奈川県立近代美術館

目次

あいさつ（水沢勉）

図版

出品リスト

縫う絵画／刺す彫刻、刺繍からさらけでるもの（高嶋雄一郎）

展覧会歴

参考文献

関連記事

▼展評・解説など

- ・松沢奈々子「針と糸 たぐりよせる 沖潤子 2つの個展」『朝日新聞』、2022年11月8日夕刊、3面
- ・沖潤子「BRUTUSCOPE EXHIBITION 刺繍の枠を超えて針と糸で表現を続ける沖潤子、美術館での初個展が開催中。」『BRUTUS』2022年12月1日号（Vol.43 No.22）、p.114
- ・山根聡「かながわ美の手帖 県立近代美術館 鎌倉別館 沖潤子 さらけでるもの OKI Junko: The Exposed」深夜の谷戸で没頭「刺繍」表現を模索『産経新聞』2022年12月5日朝刊、20面
- ・高橋円「沖潤子 さらけでるもの」◎県立近代美術館鎌倉別館 刺しゅうの概念を超えて『神奈川新聞』2022年12月19日朝刊、13面
- ・藤島俊会「神奈川の文化時評 沖潤子「さらけでるもの」県立近代美術館鎌倉別館 刺しゅうが演出する世界」『神奈川新聞』2023年1月9日朝刊、15面

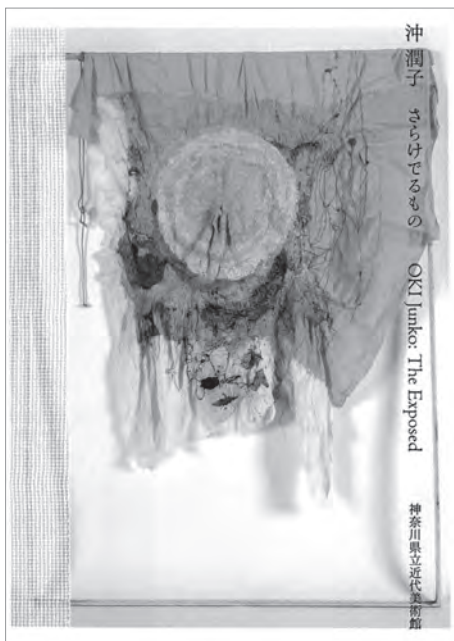
ほか3件

▼展覧会紹介：2紙(2回)／6誌(6回)

▼情報掲載：4紙(24回)／10誌(22回)

▼ウェブ

- ・photo: Yoichi Nagano / text: Shiho Nakamura「刺繍の枠を超えて針と糸で表現を続ける沖潤子、美術館での初個展が開催中」『BRUTUS』2023年3月23日
https://brutus.jp/junkooki_sarakederumono/



カタログ

鎌倉別館

780

コレクション展 美しい本—湯川書房の書物と版画

Beautiful Books : Publications by Yukawa Shobō and Prints from the Museum Collection

装幀や製本に意匠を凝らした限定本を出版し、多くの愛書家を魅了した湯川書房（1979–2008）。小川国夫、加藤周一、谷崎潤一郎、塚本邦雄、辻邦生、車谷長吉など一流の文学作品を版画家の木村茂、岡田露愁、柄澤齊、染色家の望月通陽、画家の戸田勝久ら気鋭の美術家と結び合わせ、文学と共鳴する工芸品ともいべき書物を刊行した。本展は2016年度に蒐集家の岡田泰三氏よりご寄贈いただいた「湯川本」を展覧することから、書物のユートピアをめざした書房の魅力を紹介した。また湯川書房で多くの共作を残し、自らも出版工房を主宰する柄澤齊による木口木版の世界をあわせて展覧した。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2023年1月21日(土)～4月16日(日)
休館日：月曜日
開催日数：60日
出品総点数：72点
総観覧者数：4,012人
担当学芸員：菊川亜騎、朝木由香 広報：八木めぐみ

関連企画

1) ゲスト・トーク「湯川書房の本作り、版画とのかかわりから」2023年3月12日(日) 話し手：柄澤齊(版画家)

関連記事

▼展評・解説など

- ・橋本麻里「東洋美術逍遙 45 茶会のしつらえを感じさせる書物「美しい本—湯川書房の書物と版画」」『週刊文春』2023年3月2日号(65巻8号)、p.114
- ・「ME NO ME TOPICS 今、なぜ書物なのか？ 問いかける「美しい本」の数々。美しい本—湯川書房の書物と版画」『目の眼』2023年4月号(No.559)、p.89
- ・「大波小波 美しき書物の展覧会 [神奈川県立近代美術館 鎌倉別館]」『東京新聞』2023年2月6日夕刊、5面
- ・加藤修「好書好日 限定本で示された情熱」『朝日新聞』2023年4月1日、18面
- ・山根聡「かながわ美の手帖 県立近代美術館 鎌倉別館 コレクション展「美しい本—湯川書房の書物と版画」 意匠凝らす限定本 ずぶの素人の挑戦」『産経新聞』2023年4月3日朝刊、3面
- ・芳垣文子「探訪 KANAGAWA ART 工芸として的美しき書籍 16日まで 県立近代美術館鎌倉別館 湯川書房の限定本「文学にふざわしい装い」追求 意匠凝らす限定本 ずぶの素人の挑戦」『朝日新聞』2023年4月7日朝刊、14面

▼展覧会紹介：3紙(3回)／5誌(6回)

▼情報掲載：4紙(18回)／5誌(5回)

▼ウェブ

- ・岩本恵美「「美しい本—湯川書房の書物と版画」展 本を手にする喜びを形に」『朝日新聞社 好書好日』2023年3月23日
<https://book.asahi.com/article/14861648>



チラシ (A3二つ折)



会場風景 1



会場風景 2

教育普及活動

2022(令和4)年度 教育普及事業実績一覧

受講・参加プログラム(講演会、イベント・ワークショップ・学校連携・地域連携等)

	事業名	事業内容				事業実績	
		テーマまたは内容	講師・出演者等	実施日	実施場所	参加方法等	受講者数等
展覧会関連講演会等	企画展「奥谷 博—無窮へ」アーティスト・トーク	作家と館長による対談	奥谷 博(洋画家)、水沢 勉	R4.4.2	葉山館展示室	事前申込制	39名
	企画展「生誕100年 朝倉 摂」ゲスト・トーク+絵本の朗読 *図1	ゲストによるトークおよび絵本『スイッチョねこ』の朗読	富沢亜古(俳優)、水沢 勉	R4.6.4	葉山館展示室	事前申込制	33名
	企画展「アレック・ソス Gathered Leaves」アーティスト・トーク *図2	アーティストとゲストによる対談	アレック・ソス(写真家)、畠山直哉(写真家)	R4.7.16	葉山館展示室3b	事前申込制	44名
	企画展「マン・レイと女性たち」担当学芸員とDIC川村記念美術館学芸員による対談 *図3	ふたつのマン・レイ展担当学芸員による対談	杉浦花奈子(DIC川村記念美術館)、朝木由香	R4.12.4	葉山館講堂	事前申込制	8名
	コレクション展「美しい本—湯川書房の書物と版画」ゲスト・トーク	ゲストによるトーク「湯川書房の本づくり、版画とのかかわりから」	柄澤 齋(版画家)	R5.3.12	鎌倉別館展示室	事前申込制	31名
イベント・ワークショップ	夏のたね'22/コレクション・カード 野外彫刻編 配布	教育普及グッズの配布	鈴木敬子、鈴木彩乃	R4.7.18~8.28	葉山館/鎌倉別館	18歳以下	889部
	夏のたね'22/コレクション・カード 野外彫刻編 造形ワークショップ	夏のたね'22/コレクション・カード 野外彫刻編をヒントに「立体コレクション・カード」を作るワークショップの実施	鈴木敬子、鈴木彩乃、吉田有瑠子	R4.7.28/8.9/8.18/8.24(各日午前・午後計8回)	葉山館講堂	18歳以下事前申込制	45名
	コレクション展「これってさわれるのかな?—彫刻に触れる展覧会」関連ワークショップ、「石の家をつくろう」【荒天のため中止】	薄くスライスした石をひとつひとつ積み重ねて「石の家」をつくるワークショップの実施	北川太郎(彫刻家)、八木めぐみ、畠山昌夫	R4.8.13	鎌倉別館庭園	18歳以下事前申込制	
	夏のたね'22/コレクション・カード 野外彫刻編 鑑賞ワークショップ	夏のたね'22/コレクション・カード 野外彫刻編をヒントに彫刻鑑賞ワークショップの実施	八木めぐみ、畠山昌夫	R4.8.26	鎌倉別館庭園	18歳以下事前申込制	2名
ギャラリー・トーク	企画展「生誕100年 朝倉 摂」、コレクション展「手跡をたどる 特集:中尾 誠」オンライン館長トーク	館長による展覧会解説	水沢 勉	R4.4.30	Zoom	事前申込制	6名
	企画展「生誕100年 朝倉 摂」担当学芸員によるトーク	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R4.5.21	葉山館講堂	事前申込制	12名
	コレクション展「手跡をたどる 特集:中尾 誠」担当学芸員によるオンライントーク	学芸員による展覧会解説	橋口由依	R4.5.15	Zoom	事前申込制	5名
	企画展「生誕110年 松本竣介 小企画:堀江 菜一触れえないものたちへ」オンライン館長トーク	館長による展覧会解説	水沢 勉	R4.5.14	Zoom	事前申込制	13名
	企画展「アレック・ソス Gathered Leaves」館長によるトーク	館長による展覧会解説	水沢 勉	R4.7.24	葉山館会議室	事前申込制	6名
	企画展「アレック・ソス Gathered Leaves」担当学芸員によるトーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R4.8.6	葉山館講堂	事前申込制	22名
	企画展「アレック・ソス Gathered Leaves」担当学芸員によるトーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R4.9.3	葉山館講堂	事前申込制	18名
	企画展「マン・レイと女性たち」学芸員によるトーク	学芸員による展覧会解説	鈴木彩乃	R4.11.17	葉山館講堂	団体来館	16名
	コレクション展「内藤 礼 すべての動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している 2022」館長によるトーク	館長による展覧会解説	水沢 勉	R4.11.12	葉山館講堂	事前申込制	17名
	コレクション展「内藤 礼 すべての動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している 2022」担当学芸員によるトーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R4.10.29	葉山館講堂	事前申込制	10名
	コレクション展「内藤 礼 すべての動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している 2022」担当学芸員によるトーク *図4	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R4.11.27	葉山館講堂	事前申込制	23名
	企画展「横尾龍彦 瞑想の彼方」担当学芸員によるトーク	学芸員による展覧会解説	橋口由依	R5.2.16	葉山館講堂	団体来館	6名
	企画展「横尾龍彦 瞑想の彼方」、コレクション展「ジョルジュ・ルオーの銅版画」館長トーク	館長による展覧会解説	水沢 勉	R5.2.19	葉山館講堂	事前申込制	18名
	企画展「横尾龍彦 瞑想の彼方」担当学芸員によるトーク	学芸員による展覧会解説	橋口由依	R5.3.5	葉山館講堂	事前申込制	7名
コレクション展「ジョルジュ・ルオーの銅版画」担当学芸員によるトーク	学芸員による展覧会解説	長門佐季	R5.3.18	葉山館講堂	事前申込制	7名	
県立社会教育施設活用講座	県立社会教育施設活用講座「マン・レイとその時代」/第1回	「モード、デザイン、時代の風」	小池一子(クリエイティブ・ディレクター)	R4.11.5	逗子市民交流センター	事前申込制	40名
	県立社会教育施設活用講座「マン・レイとその時代」/第2回	「マン・レイと女性たち」	巖谷國士(「マン・レイと女性たち」展監修者/仏文学者/美術批評家/明治学院大学名誉教授)	R4.11.26	逗子市民交流センター	事前申込制	56名
	県立社会教育施設活用講座「マン・レイとその時代」/第3回 *図5	「サティの眼から見たマン・レイ」	青柳いづみこ(ピアニスト・文筆家/大阪音楽大学名誉教授)	R4.12.10	逗子市民交流センター	事前申込制	28名
	県立社会教育施設活用講座「マン・レイとその時代」/第4回	「マン・レイと日本の前衛写真」	飯沢耕太郎(写真評論家)	R4.12.17	逗子市民交流センター	事前申込制	38名
	県立社会教育施設活用講座「マン・レイとその時代」/第5回	「マン・レイとデュシャンの回転扉—あるいは写真とオブジェ」	光田由里(美術評論家/多摩美術大学教授)	R4.12.25	逗子市民交流センター	事前申込制	34名

	事業名	事業内容				事業実績	
		テーマまたは内容	講師・出演者等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数
先生のための特別鑑賞の時間	先生のための特別鑑賞の時間／第1回鑑賞編	「手跡をたどる 特集:中尾誠」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	橋口由依、鈴木彩乃	R4.5.7	葉山館講堂、会議室	事前申込制	0名
	先生のための特別鑑賞の時間／第2回鑑賞編	「生誕100年 朝倉 摂」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	西澤晴美、吉田有璃子	R4.5.28	葉山館展示室、会議室	事前申込制	1名
	先生のための特別鑑賞の時間／第3回鑑賞編	「アレック・ソス Gathered Leaves」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	吉田有璃子	R4.7.23	葉山館展示室、会議室	事前申込制	1名
	先生のための特別鑑賞の時間／第4回鑑賞編	「マン・レイと女性たち」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	朝木由香、鈴木彩乃	R4.11.19	葉山館展示室、会議室	事前申込制	0名
	先生のための特別鑑賞の時間／第5回鑑賞編	「内藤 礼 すべて動物は、世界の内にちようど水の中に水があるように存在している 2022」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	三本松倫代、吉田有璃子	R4.11.26	葉山館展示室、会議室	事前申込制	1名
	先生のための特別鑑賞の時間／第6回鑑賞編	「横尾龍彦 瞑想の彼方」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	橋口由依、鈴木彩乃	R5.2.25	葉山館展示室、会議室	事前申込制	2名
	先生のための特別鑑賞の時間／第7回鑑賞編	「ジョルジュ・オーの銅版画」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	長門佐季、畠山昌夫、鈴木彩乃	R5.3.11	葉山館展示室、会議室	事前申込制	1名
インクルーシブ事業「むすんでのび」プロジェクトを除く 学校連携	藤沢市滝の沢中学校美術部 *図6	夏のだね'22/コレクション・カード 野外彫刻編をヒントに「立体コレクション・カード」を作るワークショップの実施	鈴木敬子、鈴木彩乃	R4.7.21	葉山館 会議室	事前申込制	14名
	京都市立銅駝美術工芸高等学校	出張授業	畠山昌夫、鈴木敬子	R4.12.15	銅駝美術工芸高等学校		31名
	京都市立銅駝美術工芸高等学校	オンライン授業	畠山昌夫、鈴木敬子	R5.1.12	Zoom		31名
	京都市立銅駝美術工芸高等学校	計2日間/研修旅行受入れ	畠山昌夫、鈴木敬子	R5.1.18/ 1.19	葉山館講堂		62名 (各日31名)
	横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校	計2日間/連携事業「GOMI 自然を守るアート」展示	西澤晴美、畠山昌夫、三本松倫代	R5.3.14/ 3.15	鎌倉別館 展示室、カフェスペース		65名 (33/32名)
地域連携	近代美術館入門講座（葉山町共催連続講座）	「生誕100年 朝倉 摂」	西澤晴美	R4.5.27	葉山町教育委員会 会議室	事前申込制	19名
	近代美術館入門講座（葉山町共催連続講座）	「アレック・ソス Gathered Leaves」	三本松倫代	R4.7.1	葉山町教育委員会 会議室	事前申込制	6名
	近代美術館入門講座（葉山町共催連続講座）	「マン・レイと女性たち」	朝木由香	R4.11.11	葉山町教育委員会 会議室	事前申込制	7名
	近代美術館入門講座（葉山町共催連続講座）	「横尾龍彦 瞑想の彼方」	橋口由依	R5.3.13	葉山町教育委員会 会議室	事前申込制	15名
	近代美術館入門講座（逗子市共催連続講座） *図7	「生誕100年 朝倉 摂」	西澤晴美	R4.5.18	逗子市役所 会議室	事前申込制	27名
	近代美術館入門講座（逗子市共催連続講座）	「アレック・ソス Gathered Leaves」	三本松倫代	R4.6.29	逗子市役所 会議室	事前申込制	25名
	近代美術館入門講座（逗子市共催連続講座）	「マン・レイと女性たち」	朝木由香	R4.11.16	逗子市役所 会議室	事前申込制	21名
	近代美術館入門講座（逗子市共催連続講座）	「横尾龍彦 瞑想の彼方」	橋口由依	R5.2.22	逗子市役所 会議室	事前申込制	17名
	出張ワークショップ *図8	「ポー・タブルアートミュージアム」と「〇と□」	鈴木敬子、吉田有璃子、鈴木彩乃、畠山昌夫、三本松倫代、西澤晴美	R5.8.20/ 8.21	体験学習施設 スマイル	事前申込制	20名
「むすんでのび」プロジェクト インクルーシブ事業	造形ワークショップ「色と形を並べてみよう」 *図9	県立武山養護学校と共催で、来館してワークショップを行う。教材は新規に開発し、製作を近隣の社会福祉法人作業所に委託。	鈴木敬子、吉田有璃子、畠山昌夫	R4.11.1	葉山館 講堂		18名 (中学部 1年生)
	「〇と□」でつくるみんなの輪	オリジナル教材「〇と□」を県内施設に送付し、完成した造形作品の画像を美術館ウェブサイトで公開。	鈴木敬子、吉田有璃子	通年	美術館ウェブサイト http://www.moma.pref.kanagawa.jp/learning/resources/minnanowa		
実習・研修等受入	博物館学芸員実習 *図10, 11	計6日間/11大学(大正大学、青山学院大学、学習院大学、金沢美術工芸大学、京都芸術大学、上智大学、女子美術大学、東京造形大学、多摩美術大学、中央大学)	西澤晴美、鈴木彩乃	R4.8.16～ 8.26	葉山館 鎌倉別館	事前申込制	78名
	博物館学芸員実習	計5日間/1大学(信州大学大学院)	西澤晴美、鈴木彩乃	R4.10.11～ 10.13/ 11.29～30	葉山館、 オンライン	事前申込制	5名
	中学生職業体験 *図12～14	計4日間/2校(葉山町内、横須賀市内)	吉田有璃子、鈴木敬子	R4.11.10～ R4.11.17	葉山館	事前申込制	12名
	高校生インターンシップ *図15	計3日間/美術館業務の体験	吉田有璃子、鈴木敬子	R4.8.16～ 8.18	葉山館	事前申込制	18名
	教員研修（神奈川県立総合教育センター 教育委員会図画工作・美術・工芸の授業づくり）	美術教員に向けた授業づくりの提案	三本松倫代、吉田有璃子	R4.8.2	葉山館講堂	事前申込制	23名
	教員研修（逗子葉山三浦合同 小・中学校初任者研修） *図16	美術教員に向けた授業づくりの提案	三本松倫代、吉田有璃子	R4.8.19	葉山館	事前申込制	25名
	研修（東京家政大学家政学部造形表現学科 4年生）	コロナ禍以降の教育普及事業について	鈴木敬子、吉田有璃子	R4.5.29	葉山館講堂	事前申込制	40名
教育普及事業統計（配布を除く）							1,169名



図1. 企画展「生誕100年 朝倉 撰」
 ゲスト・トーク+絵本の朗読
 講師：富沢亜古(俳優)
 聞き手：水沢勉
 日時：6月4日(土)
 場所：葉山館 展示室



図2. 企画展「アレック・ソス Gathered Leaves」
 アーティスト・トーク
 講師：アレック・ソス(写真家)、畠山直哉(写真家)
 日時：7月16日(土)
 場所：葉山館 展示室



図3. 企画展「マン・レイと女性たち」対談
 講師：杉浦花奈子(DIC 川村記念美術館)、朝木由香(当館学芸員)
 日時：12月4日(日)
 場所：葉山館 講堂



図4. コレクション展
 「内藤 礼 すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している 2022」
 担当学芸員によるトーク
 講師：三本松倫代(当館主任学芸員)
 日時：11月27日(日)
 場所：葉山館 講堂



図5. 県立社会教育施設活用講座「マン・レイとその時代」
 第2回「マン・レイと女性たち」
 講師：巖谷國士(「マン・レイと女性たち」展監修者/仏文学者/
 美術批評家/明治学院大学名誉教授)
 日時：11月26日(土)
 場所：逗子市民交流センター



図6. 夏のたね'22 ワークショップ
 「コレクション・カード 野外彫刻編」
 日時：7月21日(木)
 場所：葉山館 会議室



図7. 近代美術館入門講座
「生誕100年 朝倉 振」
講師：西澤晴美(当館主任学芸員)
日時：5月27日(金)
場所：逗子市役所 会議室



図8. 出張ワークショップ
「ポータブルアートミュージアム」と「〇と□」
日時：8月20日(土)～8月21日(日)
場所：逗子市体験学習施設スマイル



図9. むすんでひらいてプロジェクト
造形ワークショップ
「色と形を並べてみよう」
日時：11月1日(火)
場所：葉山館 講堂

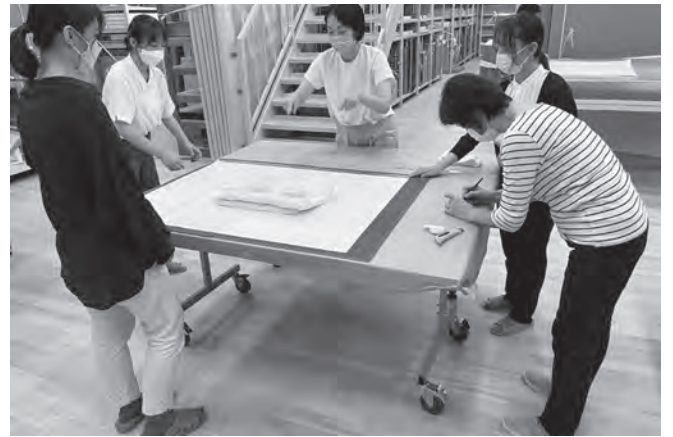


図10. 博物館学芸員実習
日時：8月16日(火)～8月26日(金)
場所：葉山館



図11. 博物館学芸員実習
日時：8月16日(火)～8月26日(金)
場所：葉山館



図12. 中学生職業体験
日時：11月10日(木)～11月17日(木)
場所：葉山館



図13. 中学生職業体験
日時：11月10日(木)～11月17日(木)
場所：葉山館



図14. 中学生職業体験
日時：11月10日(木)～11月17日(木)
場所：葉山館



図15. 高校生インターンシップ
日時：8月16日(火)～8月18日(木)
場所：葉山館



図16. 逗子葉山三浦合同 小・中学校初任者教員研修
日時：8月19日(金)
場所：葉山館 講堂

団体来館受入状況

団体種別	件数等
来館総数／人数	42団体／1,118名
学校教育機関等	小学校：3校／延べ4回184名
	中学校：9校／延べ9回188名
	高校：5校／延べ6回126名
	大学：4校／延べ4回132名
	専門学校：1校／延べ1回50名
	養護学校および特別支援学級：5校／延べ5回79名
一般	その他：1団体／延べ1回25名
	地方公共団体*2・生涯学習センター等の団体：1団体／延べ1回23名
	病院・福祉団体：4団体／延べ4回119名
	芸術家協会等の団体：1団体／延べ1回17名
	他美術館からの団体：1団体／延べ1回7名
	旅行会社・観光等の団体：2団体／延べ3回96名
	その他団体：5団体／延べ6回72名

[註]

- このデータは「教育普及実績一覧」に記載の団体を含む。
- 外郭団体を含む
- 5月29日、6月28日、7月1日、7月7日、7月12日、7月19日、7月21日、8月4日、8月19日、9月23日、11月1日、11月29日、12月11日、2023年2月16日、3月30日、3月31日の団体来館受入時には、学芸員がレクチャーまたはワークショップを行った。

「Museum Box 宝箱」貸出

内容	件数等
貸出総個数	42個
貸出先	6校と1団体
貸出回数	延べ7回
利用総人数	386名
内訳概要	小学校：3校／延べ3回
	中学校：1校／延べ1回
	高校：1校／延べ1回
	その他：1校／延べ1回
	一般：1団体／延べ1回
地域	葉山町2ヶ所、三浦市1ヶ所、横浜市2ヶ所、大阪府1ヶ所、京都府1ヶ所

展覧会図録（1995〈平成7〉～2016〈平成28〉年度）の送付

内容	件数等
送付総冊数	335冊
送付先	24施設
内訳概要	県立学校：23校／264冊
	その他教育機関：1施設／71冊

スタンプラリー

<p>葉山を巡るスタンプラリー</p> <p>・葉山館含め葉山しおさい公園、山口蓬春記念館など7つのラリーポイントをめぐるスタンプラリーを実施した。</p> <p>主催：県立葉山公園、はやま三ヶ岡山緑地指定管理者 株式会社三菱電機ライフサービス</p>	期間：2022年10月28日～11月15日
<p>ミュージアムめぐりスタンプラリー</p> <p>・「鎌倉文化ゾーン [小町通り・八幡宮エリア]」にある鎌倉別館を含め、鎌倉国宝館や鎌倉市鎌木清方記念美術館など5つの施設をめぐるスタンプラリーを実施した。</p> <p>主催：鎌倉市鎌木清方記念美術館、鎌倉市川喜多映画記念館、神奈川県立近代美術館、鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館</p>	期間：2022年10月1日～2023年3月31日

文化財保護ポスター展示

- 神奈川県教育委員会主催の第51回文化財保護ポスター応募作品から選ばれた最優秀章の作品3点を展示した。
- 共催：鎌倉市
場所：葉山館 エントランス
期間：12月1日～28日

美術図書室

鈴木めぐみ

1) 資料の収集・整理

- ・蔵書数(システム登録 2023年3月末現在) 106,364冊
- ・逐次刊行物タイトル数 和 2,418 タイトル 洋 374 タイトル
- ・2022年度新規図書・AV・図録登録数 2,180冊

2) 特別コレクション

- ・青木茂文庫の受入、登録
- ・斎藤義重文庫登録

3) 閲覧サービス

- ・2021年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応を行っていたが、11月1日以降は座席数および同時利用者数を7名から14名へ変更し、入室者への検温の協力の要請もとりやめた。2023年3月13日以降はマスクの着用は個人の判断となり、閲覧済み資料の返却台も撤去した。

- ・2022年度 開室日数 272日
- ・2022年度 入室者数 4,110名 1日平均15名
- ・2022年度 複写枚数 1,733枚
- ・2022年度 レファレンス受付件数 119件

・レファレンス事例

「創作版画家の田川憲が1938-1945年の上海滞在時に中国木刻作者協会の設立や個人雑誌を刊行している。このような1940年代の中国での創作版画活動についての資料を探している」

「彫刻家マリノ・マリーニの《踊り子》という作品が載っている本が見たい」

「第1回全日本アンデパンダン展の目録はあるか?」

「当館蔵書の『芸術倶楽部』に Art and philosophy ジョセフ・コススの記事があるか?」

「矢橋六郎の作品集で大垣市から刊行されたものはあるか?」

「Hilma Af Klint(スウェーデンの抽象画家)の作品集が見たい」等

4) 展覧会関連資料の展示

- ・美術図書室では、展覧会関連資料を「特集コーナー」としてわかりやすくまとめ、来室者が手にとって閲覧できるようにしている。

葉山館の展覧会

「生誕100年 朝倉 撰」(4月16日~6月12日)

BankART1929 編『朝倉撰展:アバンギャルド少女』

BankART1929、2010年

朝倉撰絵『スイッチョねこ』講談社、1979年

朝倉文夫『彫塑余滴:朝倉文夫文集』台東区芸術・歴史協会、1983年 など計36冊。

「コレクション展 ^{てあと}手跡をたどる 特集:中尾 誠」(4月16日~6月12日)

中尾誠『隔たりの消息:中尾誠作品集』中尾誠作品集制作委員会、2019年

川端 実『川端実:満ちゆく絵画』大塚美術、2020年

鶴見厚子『画文集夢現録』プランニングアドゥ、2020年 など計21冊。

「アレック・ソス Gathered Leaves」(6月25日~10月10日)

Alec Soth, *Sleeping By The Mississippi*, London: Mack, 2017.

Alec Soth, *Dog days Bogotá*, Göttingen: Steidl, 2007.

『IMA vol.30 アレック・ソスの終わりなき旅』アマナホールディングス、2019年 など計53冊。

「マン・レイと女性たち 特集:マン・レイと日本」(10月22日~2023年1月22日)

マン・レイ『セルフ・ポートレイト』美術公論社、1981年

カサヤの森現代美術館編『宮脇愛子展 / Aiko Miyawaki』カサヤの森現代美術館、2006年

DIC 川村記念美術館編『マン・レイのオブジェ:日々是好物-いとしきものたち』求龍堂、2022年 など計54冊。

「コレクション展 内藤 礼 すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している 2022」(10月22日~2023年1月22日)

内藤礼『空を見てよかった』新潮社、2020年

東京都庭園美術館編『内藤礼:信の感情 Rei Naito: the emotion of belief』東京都庭園美術館、2014年

西沢立衛建築設計事務所『西沢立衛建築設計事務所ディテール集』彰国社、2010年

など計32冊。

「横尾龍彦 瞑想の彼方」(2023年2月4日~4月9日)

横尾龍彦『幻の宮:横尾龍彦画集』芸術生活社、1973年

横尾龍彦『横尾龍彦 青の時代』横尾龍彦、2006年

Bogdan Snela (Hrsg.): *Der Ochs und sein Hirte: Zen-Augenblicke*, München: Kösel, 1990.

など計45冊。

「コレクション展 ジョルジュ・ルオーの銅版画」(2023年2月4日~4月9日)

ジョルジュ・ルオー『受難:パッション:54の連作油絵とアンドレ・シュアレス12の詩編』岩波書店、1975年

神奈川県立近代美術館編『ベン・シャーンとジョルジュ・ルオー』神奈川県立近代美術館、2014年

鈴木治雄『ルオー礼讃』岩波書店、1998年

など計31冊。

鎌倉別館の展覧会

「生誕110年 松本竣介 小企画:堀江 栞—触れえないものたちへ」(4月29日~5月29日)

神奈川県立近代美術館編『松本竣介:創造の原点』神奈川県立近代美術館、2016年

広島市現代美術館編『無辜の絵画:鬚光、竣介と戦時期の画家』国書刊行会、2020年

堀江栞『堀江栞:声よりも近い位置』小学館、2022年

など計35冊。

「コレクション展 これってさわられるのかな?—彫刻に触れる展覧会—」(6月11日~9月4日)

国立民族学博物館編『ユニバーサル・ミュージアム: さわる!“触”の大博覧会』小ざ子社、2021年

福井市美術館編『高田博厚展: 対話から生まれる美』福井市美術館、2017年

北川太郎『厚みある時間: Tiempo Profundo』北川太郎、2010年

など計 58 冊。

「沖 潤子 さらけでるもの OKI Junko: The Exposed」(9月17日~2023年1月9日)

沖潤子『Truly Indispensable』沖潤子、2019年

横須賀美術館編『糸で描く物語: 刺繍と、絵と、ファッションと』イデップ、2021年

京都国立近代美術館編『アボリジニの美術 伝承と創造 / オーストラリア大地の夢』京都国立近代美術館、1992年

など計 33 冊。

「コレクション展 美しい本—湯川書房の書物と版画」(2023年1月21日~4月16日)

柿沼裕朋編『版と画の間』平凡社、2014年

柄澤齊『柄澤齊木口木版画集 1971—1996』阿部出版、1996年

望月通陽『道に降りた散歩家』偕成社、2000年

など計 54 冊。

このほか、「夏のたね」配布期間にあわせた資料展示も行った。

5) 美術図書館横断検索

- ・2011年7月より「美術図書館横連絡会(ALC)」に加盟しており、横断検索の実施や加盟館の展覧会図録の速やかな相互発送により、利用者へのサービス向上に努めている。

参考 2022年度アクセス数

検索合計(項目別・フリーワード・絞込) 91,036

トップページ 45,045

美術館紹介・広報・掲載実績

1) 美術館紹介記事

「富士山を望む三浦の西海岸でリゾート気分を満喫」『JCB THE PREMIUM』第475号、2022年8月、p.30

「鎌倉、葉山・逗子で訪ねたいスポット 神奈川県立近代美術館 葉山」『JCB THE PREMIUM』第475号、2022年8月、p.35

「芸術の秋を感じに出かけよう! 神奈川 神奈川県立近代美術館 葉山 自然に溶け込んだ開放的な施設でアートを堪能

10月22日(土)より企画展「マン・レイと女性たち」を開催。」

『your らうんじ』No.257、2022年10月、p.4

上白石萌歌「ME TIME 私だけの、ひとりの時間。 Making Me Time・03 葉山の美術館とドーナツ店へ。」『& Premium』No.108、2022年12月、pp.32-33

「にほん紀行 葉山 神奈川県立近代美術館 葉山館」『発見上手』No.108、2022年12月、pp.24-25

「ほっとする癒やしのスポット 神奈川県立近代美術館 葉山 海辺の自然とともにアートを楽しむ」『これからの暮らし by ESSE: エッセ 4月号増刊』No.554、2023年4月、p.102

2) 収蔵作品・作家ほか紹介記事

坂井修一「連載 かなしみの歌びとたち—近代の感傷、現代の苦悩—第三十一回 前川佐美雄の振幅を読む(上)」『短歌』第69巻7号、2022年7月、p.168

増渕鏡子「朝倉摂の群像表現~ピカソから学んだもの」『美術の窓』No.469、2022年10月、pp.76-77

「展覧会プレビュー 面構 片岡球子展 たちむかう絵画」『美術の窓』No.472、2023年1月、p.155

「今月の展覧会 面構 片岡球子展 たちむかう絵画」『ギャラリー』第453号、2023年1月、p.43

3) ホームページ閲覧数(2022年4月~2023年3月)

ホームページ訪問者数 総数 745,194人

参照ページ 5,957,708

刊行物

* 展覧会カタログについては展覧会活動ページに記載した。

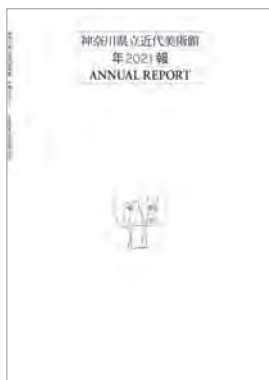
1) 夏のたね '22「コレクション・カード野外彫刻編」

編集・発行：神奈川県立近代美術館
印刷：瞬報社写真印刷株式会社
無料配布
2022年7月発行



2) 2021年度年報

編集・発行：神奈川県立近代美術館
印刷：有限会社リーヴル
29.7×21.0cm、64ページ、特色1図、単色80図
無料配布
2023年2月発行
あいさつ／展覧会活動／教育普及活動／作品蒐集管理活動／調査研究活動／運営・管理報告



3) 美術館たより『たいせつな風景』32号

特集：対話
編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：株式会社野毛印刷社
20.9×14.5cm、13ページ、多色3図
無料配布
2023年2月発行
あいさつ(水沢 勉) / ハイブリッドな対話の時代(小池一子) / 「ひかりの記録係」 宮沢賢治(ロジャー・バルバース) / 「アレック・ソス Gathered Leaves」展 アーティスト・トーク抄録(アレック・ソス、聞き手・島山直哉) / 表紙作品解説 深沢幸雄《宮沢賢治『春と修羅』より 未来園からの影》(西澤晴美)



2022(令和4)年度の神奈川県立近代美術館の教育普及事業

—神奈川県立武山養護学校との共催事業と教材「色と形を並べてみよう」の開発について—

榎山昌夫

教育普及事業の概要については、令和4年度教育普及事業実績一覧を参照していただくとして、ここでは特筆すべき神奈川県立武山養護学校との共催事業とそのために開発した教材について述べる。

武山養護学校（令和5年4月1日から校名が武山支援学校に変更されたが、以下当時の「養護学校」を用いる）から美術館に校外学習の相談があったのは6月24日のことであった。来館を希望されていたのは、療育手帳の等級A程度の知的障がいのある生徒、てんかん性発作のある生徒、歩行困難な身体障がいのある生徒を含む中学部1年の21名で、野外彫刻の鑑賞と、可能であれば、ワークショップなどの体験学習を実施して欲しいという依頼であった。美術館でのワークショップの内容を考える上で、養護学校での生徒の普段の様子を知ることが必要であると考え、学校見学を希望した。

7月12日に訪問した武山養護学校では、身近なものから工夫して食品サンプルを作り、定食の模型を構成する授業が行われていた。情緒、行動に注意が必要な生徒もいるものの、概ね先生や介助者の指示があれば授業に参加できることと、生徒が以前の授業で制作したコラージュ作品の高い完成度を見て、美術館での体験学習は造形ワークショップを中心にすることにした。この訪問時の打ち合わせの中で、近隣の企業から提供を受けた官製はがきを活用したい（郵便という社会の仕組みも生徒に体験させたい）という希望が養護学校から示されたので、それを考慮することにした。また、この時に参考として持参した当館の教材「○と□」（『年報2020年度』、p.22参照）の製作を委託している近隣の社会福祉法人の就労継続支援事業所で、武山養護学校の複数の卒業生が働いていることを知った。

造形ワークショップ実施中の安全確保を絶対条件として、道具を使わない新しい教材を開発する必要があった。ここで、官製はがきの活用という条件が、逆にヒントとなった。神奈川県立近代美術館 葉山では、2013年に開催した「松本瑠樹コレクション ユートピアを求めて ポスターに見るロシア・アヴァンギャルドとソヴィエト・モダニズム」展の展示室で、はがきに幾何学形やキリル文字のシールを貼ってデザインを楽しむドロップイン形式の制作コーナーを設けて好評であった。それは作品が並ぶ展示室で実施するため、絵具や道具や接着剤を使わない安全な方法として考えられていた。これを発展させて、シール色紙からあらかじめ切り出しておいた円と四角形と三角形を台紙に貼ってデザインを作ることにしたが、その際、手先の器用さに関わらず誰もが簡単に組み立てるように、ひとつひとつの幾何学形パーツを大きくして、A3判の台紙にはがきの縦横2倍の枠線を引いて、枠線からシールの一部をはみ出して貼ることができるようにした。また、シール色紙は、剥離紙に切り込みが入っている剥がし易いものを選択した。そして、生徒たちが作ったデザインを後日スキャナで取り込み、枠線部分でトリミングして縮小し、官製はがきにプリントすることを養護学校にお願いすることとし、養護学校と共催で当館のインクルーシブ事業「むすんでひらいてプロジェクト」のひとつとして実施することに

した。

当館で、シール色紙から切り出す魅力的な幾何学形のパターンを考え、教材製作を社会福祉法人の事業所に委託する。つまり、事業所で働く養護学校の卒業生は、自分たちの後輩のために美術館のワークショップで使う教材を作ることになる。美術館で生徒が作ったデザインのデータを事業所に送り披露してもらうことで、教材の作り手のやり甲斐と自己肯定感を高める。一方、養護学校の生徒も、卒業生の作った教材を使うことで、自分の卒業後の進路について考える機会となる。生徒は養護学校で自分のデザインが印刷されたはがきに住所と名前を記してポストに投函し、それが自分に届くことで、郵便という社会の仕組みを学ぶ。さまざまな社会の仕組みの中で、こうした世代を超えた交流が美術館をハブとして実現されることを期待したワークショップとその教材の開発であった（図1）。教材は10月14日に納品され、さっそく養護学校の先生が自ら試して、画像を送ってくれた。



図1

当初予定されていた10月25日は雨天のため、野外彫刻の鑑賞ができないということで、校外学習は11月1日に延期となった。当日、3台のスクールバスで生徒18名と引率の先生方11名が来館した。ワークショップには生涯学習課社会教育グループからも2名見学に来た。ほとんどの生徒は集中して取り組み、全員が自分なりのデザインを仕上げる事ができた。円と四角形と三角形の配置は生徒それぞれのリズムで配置されているのみならず、それぞれの形の色の選択が実に個性的であることに驚かされた。12色のシール色紙から、同じ色の円と四角形と三角形を選択する生徒がいるとは思ってもよらなかったが、作られたデザインはどれも実に素晴らしいものであった（図2、3）。

後日、養護学校の生徒たちから、余った幾何学形パーツで飾られたお礼のメッセージ・バナーが美術館に届いた。



図2



図3

作品蒐集管理活動

2022(令和4)年度 購入・寄贈状況 2023(令和5)年3月31日現在

(作品)	
購入件数	3件
新規寄贈件数	175件
管理替件数	1件
収蔵総件数	15,864件

(資料)	
新規寄贈件数	10件

2022(令和4)年度 寄託状況 2023(令和5)年3月31日現在

(作品・資料)	
寄託総件数	1,162件

2022(令和4)年度 新収蔵作品一覧

[凡例]

- ・寸法の単位はcmである。イメージ寸法と支持体寸法および変更がある場合の制作年と発行年は「/」で区切り、記載した。
- ・署名年記は、書込みの位置とあわせて記した。

購入

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
油彩画・アクリル画など								
佐藤哲三	原野	1950	油絵具、カンヴァスボード	23.9	32.9			
唐杉庸平	on the retina	2022	インク、布、木製パネル	99.9	200.0	28.0		第57回神奈川県美術展 神奈川県立近代美術館賞
吉田きつ子	記憶 I	2022	油絵具、カンヴァス	130.3	162.0			第61回神奈川県女流美術家 協会展 神奈川県立近代美 術館賞

管理替え

彫刻・インスタレーション

黒川弘毅	スパルトイ no.20	1985-86	ブロンズ	54.5	76.0	16.0		
------	-------------	---------	------	------	------	------	--	--

寄贈

版画(日本)

磯見輝夫	波紋	1979	木版、紙	57.6	80.3		右下: '79 T. Isomi、中下: 波紋、左下: 8/40	
磯見輝夫	花と波	1983	木版、紙	73.8	144.2		右下: '83 T. Isomi、中下: 花と波、左下: 6/60	
高柳 裕	支点-E	1986	孔版、紙	62.6	62.8		右下: Y. Takayanagi '86、 中下: FULCRUM (支点) -E、左下: 20/20	
筆塚稔尚	午後の死角-3	1990	木版、紙	79.8	109.6		右下: T. Fudezuka '90、左 下: 15/20 午後の死角 Dead Angle of Afternoon-3	
筆塚稔尚	午後の死角-5	1993	木版、紙	67.6	109.2		右下: T. Fudezuka '93、左 下: AP. 午後の死角 Dead Angle of Afternoon-5	

素描・水彩画など

高柳 裕	透明な記憶	1977	鉛筆、パステル、カラー ジュ、紙	61.4	77.5		右下: Yutaka Takayanagi '77	
------	-------	------	---------------------	------	------	--	---------------------------	--

<江口 週氏寄贈>

彫刻・インスタレーション

江口 週	沈黙の柱	1996	木(クス)	292.0	81.0	73.5		
江口 週	失われた時—過去の彼方から	1998	木(クス)	71.5	399.5	97.5		

<大林元太郎氏寄贈>

油彩画・アクリル画など

中村琢二	江ノ島ヨットハーバー	制作年不詳	油絵具、カンヴァス	38.3	48.5		画面右下: takuji	
------	------------	-------	-----------	------	------	--	--------------	--

<柄澤 齊氏寄贈>

版画(日本)

柄澤 齊	水雀先生百壽耕書図(湯川成一百歳の像)	2010 / 2022	木口木版、紙	20.0/31.0	24.4/45.5		右下: 齊印	
------	---------------------	-------------	--------	-----------	-----------	--	--------	--

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
〈北川太郎氏寄贈〉								
彫刻・インスタレーション								
北川太郎	時空ピラミッド	2022	御影石、トラバーチン、大理石、コンクリートボンド	53.0	67.0	35.0		
〈小金沢 智氏寄贈〉								
日本画								
朝倉 撰	赤いフード	1950 - 51	顔料、紙	37.7	45.6			
〈島田久子氏寄贈〉								
日本画								
長谷川路可	[瀬戸内風景]	1934	絹本着彩、パネル装	111.8/169.1	105.0/106.8			
〈志水陽子氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
フランス、サム	Shimizu Target	1960	アクリル絵具、紙	75.5	56.7		裏面: Sam Francis '60 Tokyo	
〈互井卓郎氏寄贈〉								
素描・水彩画など								
互井開一	海浜	1962	水彩絵具、鉛筆、紙	62.3	47.0		左下: 1962 Kaiichi	
互井開一	車エビ	1966	水彩絵具、紙	23.0	32.0		右下: Kaiichi	
互井開一	札幌郊外	1966	水彩絵具、紙	27.5	45.8		右下: Kaiichi	
互井開一	リスボン郊外	1960年代	水彩絵具、カンヴァス	33.8	45.7		左下: Kaiichi	
〈中山真一氏寄贈〉								
素描・水彩画など								
アーミテージ、ケネス	抱擁する人	1959	セルロースペイント、紙	56.1	39.7		画面右下: KA59	
〈野崎道雄氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
タイマンズ、リュック	キャンディ	2000	油絵具、カンヴァス	52.0	36.0			
タイマンズ、リュック	無題	2000	油絵具、カンヴァス	29.0	39.5			
デ・カイザー、ラウル	アクロス・ブルー	2001	油絵具、カンヴァス	32.0	35.0			
ボイス、ヨーゼフ	ウォーホル—ボイス イベント	1979	印刷、油絵具、鉛筆、紙	29.7	42.0		p.17: Joseph Beuys	冊子。500部限定
ボルケ、ジグマー	無題	1975	エナメル、写真をプリントしたカンヴァス	40.6	50.2			
ボルケ、ジグマー	無題	1981	ミクストメディア、布	130.0	110.0		裏面左下: S. Polke	
ボルケ、ジグマー	無題	1985	アクリル絵具、紙	100.0	75.0		右下: Sigmar Polke	
ボルケ、ジグマー	「法王がシュピーツでベーコンカトラーを注文するのは遅すぎた」(『PARKETT』No. 30のためのエディション)	1991	アクリル絵具、ビニール	50.0	40.0			48/100
リヒター、ゲルハルト	トライスター	1981	塗料、レコード盤	17.5	17.5	0.1	裏面: 20/75	47/75
リヒター、ゲルハルト	ゴルトベルク変奏曲	1984	油絵具、レコード盤	43.5	43.5			6/100
リヒター、ゲルハルト	アブストラクト・スケッチ	1988	油絵具、カンヴァス	35.0	40.0		裏面: Richter 1988, 664-5	レゾネ664-5
リヒター、ゲルハルト	5.2.88	1988	油絵具、紙	29.8	41.8			
リヒター、ゲルハルト	イザ	1990	油絵具、カンヴァス	40.5	35.0			レゾネ717-5
リヒター、ゲルハルト	アブストラクト・ペインティング	1992	油絵具、カンヴァス	126.0	92.0		裏面: Richter 1992, 762-3	レゾネ762-3
リヒター、ゲルハルト	8.2.92	1992	油絵具、写真	10.0	15.0		裏面: Richter 8.2.92	
リヒター、ゲルハルト	カッセル	1992	エナメル塗料、オフセット印刷、紙	15.9	23.5		台紙: 36/50 Richter 92	36/50
リヒター、ゲルハルト	緑・青・赤(『PARKETT』No. 35のためのエディション)	1993	油絵具、カンヴァス	30.0	40.0		裏面: 789-54 Richter, 93	54/115 レゾネ789-54
リヒター、ゲルハルト	アブストラクト・ペインティング	1994	油絵具、カンヴァス	56.0	61.0		裏面: Richter 1994, 817-5	レゾネ817-5
リヒター、ゲルハルト	20.8.94	1994	油絵具、写真	10.0	15.0		台紙: 8.20.94 Richter	
リヒター、ゲルハルト	14.12.94	1994	油絵具、写真	10.0	15.0		裏面: PORTOFINO Gerhard Richter 14. Dez. 1994	
リヒター、ゲルハルト	14.12.94	1994	油絵具、写真	10.0	15.0		裏面: KÖLN / Gerhard Richter 14. Dec. 1994	
リヒター、ゲルハルト	アブストラクト・ペインティング	1995	油絵具、カンヴァス	36.0	41.0		裏面: Richter 1995, 825-4	レゾネ825-4
リヒター、ゲルハルト	アブストラクト・ペインティング	1995	油絵具、カンヴァス	92.0	82.0		裏面: Richter 1995, 828-1	レゾネ828-1
リヒター、ゲルハルト	無題(赤)	1995	油絵具、紙	29.5	41.8		左下: 10. Dec 1995、 右下: Richter	
リヒター、ゲルハルト	無題(緑)	1995	油絵具、紙	29.5	41.8		左下: 15. Dec 1995、 右下: Richter	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
リヒター, ゲルハルト	スーベニール	1995	油絵具、カンヴァス	21.0	21.0			52/64
リヒター, ゲルハルト	10.2.96	1996	油絵具、写真	10.0	15.0			
リヒター, ゲルハルト	19.2.96	1996	油絵具、写真	10.0	15.0			
リヒター, ゲルハルト	富士	1996	油絵具、アルミニウム板	29.0	37.0			39/100 レゾネ839-39
リヒター, ゲルハルト	アブストラクト・ペインティング	1997	油絵具、アルミニウム板	50.0	72.0			レゾネ840-8
リヒター, ゲルハルト	2.2.97	1997	油絵具、写真	10.0	15.0			
リヒター, ゲルハルト	4.4.98	1998	油絵具、写真	10.0	15.0		裏面: Richter 4. April 1998	
リヒター, ゲルハルト	3.11.99	1999	油絵具、写真	10.0	15.0		台紙裏面: 3. Nov. 1999 Richter	
リヒター, ゲルハルト	7.2.00	2000	油絵具、写真	12.0	12.0		台紙: 7. Febr. 2000 Richter	
リヒター, ゲルハルト	アブストラクト・ペインティング	2001	油絵具、アルミニウム板	50.0	72.0		裏面: Richter 2001. 871-10	レゾネ871-10
河原温	1980年8月10日(「Today」シリーズ No. 28)	1980	リキテックス、カンヴァス	25.4	33.0		裏面中央: On Kawara	
木村忠太	クロサンビエールの夕方	1978	油絵具、カンヴァス	100.1	100.2	2.2	右下: KIMURA、裏面: クロサンビエールの夕方 KIMURA 1978	
中川力	バラ	制作年不詳	油絵具、カンヴァス	21.8	14.9			
中村一美	採桑老 No.22	1998	油絵具、カンヴァス	74.0	54.0			
素描・水彩画など								
クリスト	ランニング・フェンス・プロジェクト、カリフォルニア州マリンド郡	1976	ワックス・クレヨン、鉛筆、コラーージュ、紙	55.9	71.8			
クリスト	包まれたライヒスターク、ベルリンのためのプロジェクト	1995	鉛筆、エナメル、写真、クレヨン、コラーージュ、紙	21.5	28.0			
シュッテ, トーマス	花と顔 18.1.95	1995	水彩絵具、インク、紙	32.5	25.0		左下: 18.1.95 / Th. Schutte	
シュッテ, トーマス	花と顔	1995	水彩絵具、インク、紙	28.0	20.0		右下: Th. Schutte 1995	
スカリー, ショーン	8.21.89#1	1989	パステル、紙	56.5	76.2			
タイマンズ, リュック	無題	2000	水彩絵具、紙	27.0	21.0			
トゥオンブリー, サイ	無題(アフリカを離れて)	1960	グラファイト、クレヨン、ボールペン、紙	28.0	35.5		左上: Cy Twombly (off Africa) / Nov.25.1960	
フレヴィン, ダン	2と4(バーネット・ニューマンへ)	1971	色鉛筆、インク、グラフ紙	42.5	55.2			
ボイス, ヨーゼフ	今日も元気に	1972	鉛筆、紙	14.7	21.0			65/100
ボイス, ヨーゼフ	対話	1974	印刷、水彩絵具、インク、紙	35.5	27.2			4/2000 書籍(サインあり)。作品《Gesprach》所収
ボイス, ヨーゼフ	ファットアクション	1975	鉛筆、スタンプ、紙	58.8	44.1			
ボルケ, ジグマー	十字架	1967	水彩絵具、紙	21.0	14.0			
ボルケ, ジグマー	木の中のかたち	1967/68	水彩絵具、紙	21.0	15.5			
ボルケ, ジグマー	『PARKETT』(10周年記念号)	1994	印刷、水彩絵具、紙	25.5	21.0			B-11/25 書籍(サインあり)。作品《Untitled》所収
マグリット, ルネ	小さなグワッシュとオブジェ	不詳	鉛筆、クレヨン、トレーシングペーパー	22.0	27.5			左下: Petites gouaches et objets
リキテンスタイン, ロイ	《納屋》のための習作	1969	クレヨン、紙	18.7	19.1			
リヒター, ゲルハルト	アブストラクト VII 91	1991	水彩絵具、紙	13.0	17.8			
リヒター, ゲルハルト	13.2.97	1997	水彩絵具、紙	11.8	10.7		右下: 13.2.97 / Richter	
リヒター, ゲルハルト	16.2.97	1997	水彩絵具、紙	15.0	13.1		右辺下: 16.02.97 Richter	
リヒター, ゲルハルト	22.2.97	1997	水彩絵具、紙	11.6	16.3		中上: 22.02.97 / Richter	
ルウィット, ソル	青のグリッド、黄色の円、4辺の赤の円弧、4つコーナーの黒の円弧	1972	インク、鉛筆、紙	33.0	33.0			
版画(西洋)								
アルバース, ジョセフ	柱	1928/1970	スクリーンプリント、紙	49.0	45.0		右下: 87/100 Albers '70、下部印字: The aim to live is living creatures The aim of art is living creations J.A. JOSEF ALBERS. PILLARS, 1928 In Commemoration of the One Hundredth Anniversary of the Metropolitan Museum of Art	メトロポリタン美術館100周年を記念して刷られたもの
アルバース, ジョセフ	オマー・ジュ・トゥ・ザ・スクエア 1	1970	スクリーンプリント、紙	62.0	62.0		右下: Albers '70、左下: MMA-1 87/100 下部印字: To distribute material possessions is to drive them to distribute spiritual possessions is to multiply them J.A. JOSEF ALBERS. HOMAGE TO THE SQUARE: MMA-1 In Commemoration of the One Hundredth Anniversary of the Metropolitan Museum of Art	メトロポリタン美術館100周年を記念して刷られたもの

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
アルバース, ジョセフ	オマー・ジュ・トゥ・ザ・スクエア 2	1970	スクリーンプリント、紙	62.0	62.0		右下: Albers '70, 左下: MMA-2 87/100 下部印字: Easy to know that diamonds are precious good to learn rubies have depth but more to see that pebbles are miraculous J.A JOSEF ALBERS, HOMAGE TO THE SQUARE: MMA-2 In Commemoration of the One Hundredth Anniversary of the Metropolitan Museum of Art	メトロポリタン美術館100周年を記念して刷られたもの
アルバース, ジョセフ	バリエーション	1970	スクリーンプリント、紙	49.0	45.0		右下: Albers '70, 左下: MMA-3 87/100	
ステラ, フランク	モールトンヴィル	1974	リトグラフ、スクリーンプリント、紙	56.2	43.4			44/100
スミス, キキ	キキ・スミスのダウリー・ブック	1997	オフセット印刷、紙	12.0	15.0			74/200 書籍、オフセット・リトグラフ1点所収
ナウマン, ブルース	シュガー／ラガス	1973	リトグラフ、シルクスクリーン、紙	66.5	87.5			46/57
ボイス, ヨーゼフ	レオナルド・ダ・ヴィンチ〈マドリッド手稿〉のためのドローイング	1975	印刷、リトグラフ、紙	31.0	23.5			581/1000 書籍(サインあり)。作品《無題》リトグラフ、紙、(81/100)所収
ボイス, ヨーゼフ	芸術＝資本	1980	シルクスクリーン、スレートボード、木枠	31.8	43.8		木枠右下: Joseph Beuys X/X	
ボイス, ヨーゼフ	そりとジョイス	1985	オフセット印刷、シルクスクリーン、紙	29.7	21.0			71/100
リキテンスタイン, ロイ	金魚鉢	1981	多色木版、紙	46.4	27.5			4/30
ルウィット, ソル	4つのコーナーの円弧	1986	多色木版、紙	47.0	71.0		右下: LeWitt 97/100	
版画(日本)								
岡崎和郎/瀧口修造	検眼圖	1977	シルクスクリーン、アクリル板、レンズ、アルミニウム	26.0	26.3	26.0		43/100
写真・印刷物								
ケリー, マイク	リンカーンの生誕地、キリストの生誕地	1985/96	ゼラチン・シルバープリント、紙	17.0; 17.0	25.0; 25.0			2点組
ケリー, マイク	フローズン・カスケード—形の詩: ネーミング作家論を展開するための継続的な試みの一部	1985/96	ゼラチン・シルバープリント、紙	14.6	10.5			34点のうちの1点。5/5
シュトゥールト, トーマス	ゲルハルト・リヒター、マドリッド	1994	Cプリント、紙	182.0	230.0	4.9		5/10
シュナイダー, グレゴール	コアにて	1996	写真	15.7	10.5			2/6
シュナイダー, グレゴール	ラスト・ホール	1996	写真	10.8	15.8			2/6
ティルマンズ, ヴォルフガング	ラズベリーとブーツ	1994	Cプリント、紙	40.5	30.5			4/10
ティルマンズ, ヴォルフガング	貝殻	1995	Cプリント、紙	30.5	40.5			8/10
ティルマンズ, ヴォルフガング	シェイカー・ツリー	1995	Cプリント、紙	40.5	30.5			6/10
ティルマンズ, ヴォルフガング	アレックス	1997	Cプリント、紙	40.5	30.5			5/10
ティルマンズ, ヴォルフガング	私たちは仲間だ	1997	Cプリント、紙	30.5	40.5			5/10
ティルマンズ, ヴォルフガング	コンコルド L432-8	1997	Cプリント、紙	32.0	22.0			2/10
ティルマンズ, ヴォルフガング	コンコルド L440-15A	1997	Cプリント、紙	32.0	22.0			2/10
ティルマンズ, ヴォルフガング	コンコルド L440-16A	1997	Cプリント、紙	32.0	22.0			1/10
ティルマンズ, ヴォルフガング	コンコルド L443-16A	1997	Cプリント、紙	32.0	22.0			2/10
ティルマンズ, ヴォルフガング	ドレープのある布(青)	1998	Cプリント、紙	40.5	30.5			7/10
ティルマンズ, ヴォルフガング	フェルスタライシュトラーセ	1998	Cプリント、紙	60.5	50.5			1/3
ティルマンズ, ヴォルフガング	エクリプス 1-1	1998	Cプリント、紙	40.5	30.5			8/10
ティルマンズ, ヴォルフガング	砂の城	2000	Cプリント、紙	30.5	40.5			5/10
ティルマンズ, ヴォルフガング	コンキスタドール III	1995/2000	Cプリント、紙	40.5	30.5			4/10
デュビュッフェ, ジャン	ホウルーベ銀行: トランプとドローイング・カード	1967	スクリーンプリント、カード	24.7	16.5			
パレルモ, プリンキー	プロジェクション	1971	オフセット印刷	19.5	26.0			82/150
フォステル, ヴォルフ	資本主義リアリズムのグラフィック: 自画像	1971	オフセット印刷、紙	21.0	23.0			16/120

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
プレーマー, クラウス・ペーター	資本主義リアリズムのグラフィック: 自画像	1971	オフセット印刷, 紙	21.0	23.0			16/120
ヘーディケ, カール・ホルスト	資本主義リアリズムのグラフィック: 自画像	1971	オフセット印刷, 紙	21.0	23.0			16/120
ベッヒャー, ベルント&ヒラ	冷却塔	1973	ゼラチン・シルバープリント, 紙	63.3	85.0		マット左下: Bernd Becher Hilla Becher, Kühltürme マット右下: 1973	
ベッヒャー, ベルント&ヒラ	ジーゲン近郊のフロイデンベルクのフレームワーク・ハウス	1974	ゼラチン・シルバープリント, 紙	63.3	85.0		マット右下: Bernd Becher Hilla Becher, マット左下: SCHULE IN FREUDENBERG BEI SIEGEN	
ボイス, ヨーゼフ	バラなしに我々はそれをしない	1972	オフセット印刷, 色鉛筆, ボード	80.0	52.0			42/80
ボイス, ヨーゼフ	チェストツリー	1973	オフセット印刷, 紙	59.3	42.8			302/1000
ボイス, ヨーゼフ	氷のようなスポンジの死のベッド	1979	グラビア印刷, 鉛筆, 紙	98.3; 98.3	68.7; 68.7			XIII/XX(2額)
ボイス, ヨーゼフ	盲人にとって最良の町	1981	印刷, インク, 銅線, 紙	20.0	12.0			11/20 書籍。表紙にインクによる書き込みあり
ボイス, ヨーゼフ	ファンフォト	1982	写真	30.5	24.0			33/100
ボイス, ヨーゼフ	古い師	1982	オフセット印刷, 紙	60.0	41.5			151/200
ボルケ, ジグマー	テレビジョン・ピクチャー(サッカー選手)	1971	オフセット印刷, ボード	64.0	84.0		右下: S.Polke 71	エディション番号の記載なし
ボルケ, ジグマー	資本主義リアリズムのグラフィック: 自画像	1971	オフセット印刷, 紙	17.7	19.2			16/120
ボルケ, ジグマー	ケルン・ベガーズ I	1972	オフセット印刷, 紙	42.7	60.5		右下: Sigmar Polke、左下: 31/100	
ボルケ, ジグマー	ケルン・ベガーズ II	1972	オフセット印刷, 紙	42.7	60.5		右下: Sigmar Polke、左下: 31/100	
ボルケ, ジグマー	ケルン・ベガーズ III	1972	オフセット印刷, 紙	42.7	60.5		右下: Sigmar Polke、左下: 31/100	
ボルケ, ジグマー	ケルン・ベガーズ IV	1972	オフセット印刷, 紙	42.7	60.5		右下: Sigmar Polke、左下: 31/100	
ボルケ, ジグマー	無題	1987	スクリーンプリント, 紙	98.5	69.1			エディション番号の記載なし
ボルケ, ジグマー	無題	1988	ゼラチン・シルバープリント, 紙	50.7	60.7		右下: Sigmar Polke 88	
ボルケ, ジグマー	無題	1988	ゼラチン・シルバープリント, 紙	60.5	50.8		右下: Sigmar Polke 88	
ボルケ, ジグマー	無題	1989	スクリーンプリント, 紙	98.0	67.0			168/450
ボルケ, ジグマー	絵画の3つの嘘	1995	オフセット印刷, 紙	50.0	66.5		中下: Sigmar Polke、右下: 1995	55/75
リヒター, ゲルハルト	9つの物体	1969	オフセット印刷, 紙	32.1/44.9	32.1/44.9		右下: Richter 69	エディション番号の記載なし
リヒター, ゲルハルト	ハイナー・フリードリヒ	1970	オフセット印刷, 厚紙	42.5	31.5			テストプリント
リヒター, ゲルハルト	スパーク	1970	オフセット印刷, 厚紙	46.9	64.9		左下: 29/200(打消し線) Richter、右下: Richter 1970	テストプリント
リヒター, ゲルハルト	資本主義リアリズムのグラフィック: 自画像	1971	オフセット印刷, 紙	9.5	7.3			16/120
リヒター, ゲルハルト	海	1973	オフセット印刷, 紙	25.0	25.0		右下: Richter	テストプリント
リヒター, ゲルハルト	1260色	1974	オフセット印刷, 紙	62.6	79.3		右下: Richter 1974 31/75	
リヒター, ゲルハルト	IBM	1987	グラフィック、オフセット印刷, 厚紙	27.0	35.8			57/75
リヒター, ゲルハルト	蠟燭II	1989	油絵具、オフセット印刷, 紙	61.6	64.8		中上: Richter 1989	300 (エディション番号の記載なし)
リヒター, ゲルハルト	アブストラクト・フォト	1989	ゼラチン・シルバープリント, 紙	49.7	69.6		右下: Richter, 1989	36/50
リヒター, ゲルハルト	6枚の写真 2.5.89-7.5.89	1989	写真	35.0; 35.0; 35.0; 35.0	50.8; 50.8; 50.8; 50.8; 50.8; 50.8			18/50 6点組
リヒター, ゲルハルト	ゲルハルト・リヒター テキスト	1993	印刷, 鉛筆, 紙	23.4	16.0		扉: R. 15. 10. 93	27/80 書籍。署名入り。函あり。ドローイング(自画像) 所収
リヒター, ゲルハルト	フード	1996	オフセット印刷, 和紙	44.0	43.7		中下: Richter, 1996	5/50
リヒター, ゲルハルト	ファースト・ビュー	2000	オフセット印刷, 紙(ボードに貼付)	18.2	15.1		左辺: 87/100 Richter	87/100
リヒター, ゲルハルト; ボルケ, ジグマー	変換	1968	オフセット印刷, 紙	46.7	67.3		右下: Polke Richter 68	36/200
リュック, コンラート	資本主義リアリズムのグラフィック: 自画像	1971	オフセット印刷, 紙	21.0	23.0			16/120
ルフ, トーマス	インテリア	1980	カラー写真	27.5	20.5			3/20
ルフ, トーマス	モニカ・ベアのポートレート	1987	カラー写真	36.0	42.0			
ルフ, トーマス	ハインツ・ハウスマンのポートレート	1988	カラー写真	36.0	42.0			
ルフ, トーマス	夜4 III	1992	Cプリント, 紙	44.0	45.0			4/6
ルフ, トーマス	夜10 II	1992	Cプリント, 紙	44.0	45.0			1/6

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
ルフ, トーマス	夜 13 II	1993	Cプリント、紙	44.0	45.0			2/6
杉本博司	スタンレー、ニュージャージー	1978	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	64.0		中下: STANLEY, NEW JERSEY [エンボス] 右下: 2/25 270 [エンボス]	
杉本博司	光の教会、安藤忠雄	1997	ゼラチン・シルバー プリント、紙	63.0	49.0		右下: 1/25 911 [エンボス]	
杉本博司	ヴィラ・サヴォワ、ル・コルビュジエ	1998	ゼラチン・シルバー プリント、紙	63.0	49.0		右下: 2/25 939 [エンボス]	
杉本博司	キノ・パノラマ、パリ	1998	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	64.0		中下: NINO PANORAMA PARIS 1998 [エンボス] 右下: 2/25 208 [エンボス]	
彫刻・インスタレーション								
ケリー, マイク	無題 #2	1996	ミクストメディア、紙	59.7	45.7		額裏中上: M.Kelly 1998	
デュシャン, マルセル	彼女の独身者たちによって裸にされた 花嫁、さえも (グリーン・ボックス)	1934	94枚の複製写真、ドロー イング、メモ、銅板、紙	33.2	28.0	20.0		IX/XX
デュシャン, マルセル	マルセル・デュシャンあるいはローズ・ セラヴィの、または、による (トラン クの箱)	1954-58	デュシャン作品のミニ チュア・レプリカ、写 真、布縫師の箱	37.7	40.0	92.0		シリーズC
ボイス, ヨーゼフ	怒りの緑	1980	『L'Espresso』誌、鉄 の箱、アクリル	32.2	46.1	5.0		1/20
ボイス, ヨーゼフ	イフィグーニエ/ティートウス・アン ドロニクス	1985	ネガ、塗料、ガラス、 鉄のフレーム	71.0	55.0	5.0		10/45
リヒター, ゲルハルト	オーキッド	1998	オフセット印刷、紙、 プレキシガラス	29.4	37.2			10/25
リヒター, ゲルハルト	黒、赤、金 III	1999	塗料、ガラス	39.0	39.0			2/2 a.p.
リヒター, ゲルハルト	ブリズム II	2003	フリントガラス	4.7	4.0	12.0		2/88 製作: WAKO WORKS OF ART
安田 侃	意心帰	1990年代	白大理石	93.0	69.0	34.0		
その他								
マン・レイ	手袋だまし	1971	皮手袋、金属、紙	33.6	27.7			
〈橋 秀文氏寄贈〉								
版画(日本)								
青木野枝	雲垣	1997	ドライポイント、紙 (雁皮鳥の子)	29.1/52.0、 29.2/52.0、 29.2/52.0、 29.2/52.0	23.0/43.0、 22.6/43.0、 22.6/43.0、 22.6/43.0		すべて左下: 9/25、 右下: Noe Aoki	5点組
〈尾藤保廣氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
尾藤 豊	遠い道	1963	油絵具、カンヴァス	92	116.5			
尾藤 豊	魚のいる風景	1966	油絵具、カンヴァス	129.4	161.2			
〈眞鍋直規氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
牧野邦夫	[不詳]	1960年代前半	油絵具、紙(パネルに貼付)	89.0/106.0	59.4/77.0			
〈森 登氏寄贈〉								
版画(日本)								
浜口陽三	3つのポプラ	1980	メゾチント、紙	62.8/75.8	48.0/56.8		右下: hamaguchi、 左下: épreuve d'essai avant aciérage	
関連資料								
〈岡田泰三氏寄贈〉								
湯川成一	湯川書房関連資料 高橋睦郎『頌』ポスター	1971		30.0	51.5			
湯川成一	湯川書房関連資料 映画『北の岬』ポスター	1976		72.8	51.5			
〈香山万里恵氏寄贈〉								
末松正樹	末松正樹 日記(1948年6月8日~11 月2日)	1948						
末松正樹	写真(広幡憲の葬儀にて)	1948		9.9	7.4			右から末松、北代省三
〈野崎道雄氏寄贈〉								
ボイス, ヨーゼフ; クリ スチャンセン, ヘニング	スコットランド交響曲/芸術のレク イエム	1973		31.5	31.5			465/500
ボルケ, ジグマー	一日一日	1975		41.6	39.9			サイン、帯あり
リヒター, ゲルハルト; オ プリスト, ハンス=ウル リッヒ	シルス	1992		15.3	10.9			書籍, 528/1000 サインあり

作家名	作品名	制作年	寸法(縦・高さ)cm	寸法(横・幅)cm	寸法(厚・奥行)cm	署名年記・書込み等	備考
リヒター, ゲルハルト	シュタムハイム	1995	20.4	12.8		サインあり	書籍
	野崎道雄コレクション 作品関連資料						書籍一式
〈橋 秀文氏寄贈〉							
山本正道	《雲の形》マケット	1969	4.5	13.3	7.5	底面：M.YAMAMOTO 9 1969 ROMA にて	

館外貸出作品一覧

開催初日が2022年4月1日から2023年3月31日までの展覧会に限る
(巡回展の場合は、第一会場の会期による)

件数	点数	作家名《作品名》	「展覧会名」会場
1	1～9	鄭野夫《連環画『水災』(一)洪水》、《連環画『水災』(十五)請願》、汪刃鋒《嘉陵江の舟曳き》、李樺《真夜中の恐怖》、王樹芸《老人》、王麥稈《麦打ち場》、上野誠《1932年メーデー》、《ポスター「山びこ学校」》、《ポスター「平和を守る 原爆展」》	「彫刻刀が刻む戦後日本—2つの民衆版画運動」町田市立国際版画美術館(4月23日～7月3日)
2	10、11	柚木沙弥郎《トコ》、寄託作品1点	村山亜土没後20年 村山亜土、柚木沙弥郎との出会い」ギャラリーTOM(6月11日～7月24日)
3	12～18	朝倉摂《歎び》、《雪の径》、《黄衣》、《裸婦C》、《夫婦》、《告発61》、《街頭に観る》	「生誕100年 朝倉 摂展」練馬区立美術館(6月26日～8月14日)、福島県立美術館(9月3日～10月16日)
4	19	青木繁《真・善・美》	「生誕140年 ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎」アーティゾン美術館(7月30日～10月16日)、久留米市美術館(10月29日～2023年1月22日)
5	20	寄託作品1点	「みる誕生 鴻池朋子展」高松市美術館(7月16日～9月4日)
6	21～26	李 禹煥《照応》、《From winds》、《Correspondance》、《点より》、《関係項—サイレンス》、《項》	「李禹煥展」国立新美術館(8月10日～11月7日)、兵庫県立美術館(12月13日～2023年2月12日)
7	27	鷺見和紀郎《EVIDENCE》	「鷺見和紀郎 brilliant corners」BankART KAIKO(8月26日～9月25日)
8	28～36	図書資料:『マヴォ』3号、『中央美術』1915-1928年、寄託資料7点	「装いの力—異性装の日本史」渋谷区立松濤美術館(9月3日～10月30日)
9	37～42	エドゥアール・マネ《エドガー・アラン・ポー(ステファヌ・マラルメ仏訳)『大鴉』1扉:鴉の頭部》、《エドガー・アラン・ポー『大鴉』2 蔵書票:飛ぶ鴉》、《エドガー・アラン・ポー『大鴉』3 ランプの下で》、《エドガー・アラン・ポー『大鴉』4 窓辺にて》、《エドガー・アラン・ポー『大鴉』5 パラスの胸像にとまる鴉》、《エドガー・アラン・ポー『大鴉』6 椅子》	「日本の中のマネ—出会い、120年のイメージ」練馬区立美術館(9月4日～11月3日)
10	43	寄託作品1点	「AGAIN-ST ルーツ／ツール 彫刻の虚材と教材」武蔵野美術大学 美術館・図書館(10月24日～11月20日、12月5日～12月24日)
11	44～47	若林 奮《犬から出る水蒸気》、《自分自身が目の空間を測る為の模型Ⅲ》、《所有・雰囲気・振動—綿についての記憶》、《ドローイング 1999.03.29-018》	「雰囲気のかたち—見えないもの、形のないもの、そしてここにあるもの」うらわ美術館(11月15日～2023年1月15日)
12	48～53	横尾龍彦《臥龍》、《流星の時》、《錬金術師》、《黎明》、《アポカリプス》、寄託作品1点	「横尾龍彦 瞑想の彼方」北九州市立美術館(12月17日～2023年1月22日)、埼玉県立近代美術館(2023年7月15日～9月24日)
13	54	寄託作品1点	「日本近代洋画の軌跡—探求と創造の100年—」日本橋三越本店(12月28日～2023年1月9日)
14	55～73	片岡球子《面構 足利尊氏》、《面構 足利義満》、《面構 足利義政》、《面構 等持院殿》、《面構 徳川家康公》、《面構 日蓮》、《面構 白隠》、《面構 上杉謙信と直江山城守》、《面構 豊太閤と黒田如水》、《面構 東洲斎写楽》、《面構 葛飾北斎》、《面構 喜多川歌麿と鳥居清長》、《面構 安藤広重》、《面構 鳥文斎栄之》、《面構 山崎辨栄上人・狛則承陵王楽人》、《面構 国貞改め三代豊国》、《面構 歌川国芳》、《面構 初代豊国》、《面構 狂言作者河竹黙阿弥・浮世絵師三代豊国》	「面構 片岡球子展 たちむかう絵画」そごう美術館(2023年1月1日～1月29日)、北九州市立美術館分館(4月8日～5月21日)、岩手県立美術館(6月3日～7月17日)
15	74～76	デイヴィッド・ナッシュ《二つの器》、《家族の木 1967-1993》(2枚組)	「第11回 円空大賞展 共鳴—継承と創造—」岐阜県美術館(2023年1月20日～3月5日)
16	77～80	佐伯祐三《自画像》、《滯船》、寄託作品2点	「佐伯祐三 自画像としての風景」東京ステーションギャラリー(2023年1月21日～4月2日)、大阪中之島美術館(4月15日～6月25日)
17	81～83	山口蓬春《比良暮雪》、《御堂供養》、《模写・北野天神絵巻》	「山口蓬春・新興大和絵会の時代」山口蓬春記念館(2023年2月4日～4月2日)

修復報告 1

伊藤由美

作 者：わん まいがん王 麥桿
作 品 名：麦打ち場
制 作 年：1946 年
材料・技法：木版、紙
寸法(mm)：修復前 286 × 516
 修復後 286 × 515

修復前の所見

薄手の紙に黒色インクで刷られた木版画であり、やや厚手の紙の台紙に貼られている。台紙の酸化が進み、密着している作品もその影響を受けて酸化黄変が著しい。刷り残し部分から覗く支持体には黄変が目立ち、黒色インクとのコントラストが下がり鑑賞の妨げとなっている(図1)。余白の左下に「打麦場」、右下に「麦桿」の文字がペン書きされている。

支持体は四隅 3cm ほどの面積を台紙に糊付けして固定してある。また同箇所には画鋏穴も見られる。左辺上下と右辺下隅に、以前、他の台紙から剥がした際に裏面の残った剥離紙片が見えている。下辺右寄りにプルシアンブルーの絵具が斑点状に付着している。裏面は広範囲にわたる黄変が見られる。

台紙は酸化黄変が著しく、表面の作品周辺部には水平方向に並ぶ褐色の細かい斑点状のしみが全面に見られ、作品の下にも続いている(図8)。この斑点状のしみの発生は作品が固定されている表面に顕著であるが裏面には見られない。裏面は全体的な黄変と共に、表面とは全く違う様相の薄い斑点が散在し、水性の液体の垂れ跡も見られる(図2、9)。

修復処置

1. 粉消しゴムを用いてドライクリーニングを施し、表面の汚れを除去した(図5)。
2. 水酸化マグネシウム水溶液に浸して脱酸、漂泊処置を行った。また浸漬した状態で四隅の糊接着部分を台紙から剥離した(図6)。
3. 作品の水洗を行った。
4. 水分が抜けるまで敷き干しをし、乾燥後、裏面に付着している旧剥離紙片を除去した。
5. 再度、本紙に水分を与え、両面にポリエステル不織布、吸い取り紙を重ね、ガラス板に挟んで水分が抜けるまでプレス乾燥を行った(図7)。
6. 黄変が残り目立つ部分は、水素化ホウ素ナトリウムで漂白した。
7. プレス後、取り扱いやすいように薄手の中性紙の台紙に固定した。

修復後の所見

脱酸処置後は、全面に及んでいた黄変が軽減され、インクと支持体のモノクロームのコントラストがはっきりとして鑑賞しやすくなった(図3、4)。また酸化が進みや脆弱となっていた紙は、多少柔軟性を取り戻した。

本作品のように、貼られていた台紙が酸化して作品に影響を及ぼし、作品も酸化黄変が進んで鑑賞しにくくなっている例は多い。本館では多数の中国木版を収蔵しているが、同様の例は多い。台紙の酸化要因として、額装されている作品の場合、裏板や部材に用いられた質の悪いベニヤ合板から影響を受けている例はよく見られ、本作品の台紙の表面に見られたようなしみが発生することがある。しかし、本作品に関しては、台紙の作品が貼ってある表面にしみの発生があるものの、裏面には見られないので、裏板など裏面からの影響ではないと考えられる。恐らく台紙自体の質の悪さがもたらす経年劣化と想定される。一般にリグニンを多く含んだ木材パルプが使用されている紙は、経年によりしみの発生を伴う劣化や黄変を起こすことがある。本作品が制作された当時は、社会的な背景からも良質の紙を入手するのは難しかったと思われ、台紙として使用する紙が経年や保存環境の悪さから劣化を引き起こすことは想像に難くない。台紙の酸化が確認された場合は、まず作品から台紙を取り外すことが重要である。

30年ほど前に額装された作品のマット紙の両面全体に細かい斑点状のしみが発生していた例があり、同時期に一齐に額装をした作品のマット紙すべてが同様の状態となっていた。マット紙両面の表層の薄い紙を剥がすと、内側の層にはしみはなかった。つまり表層に質の悪い紙を重ねて製造したマット紙に、経年劣化でしみが生じたと考えられる(図10)。一般に流通しているマット紙においてもそのような紙質のものがある。一時的な展示などで良質の紙の使用が叶わない場合は、展示後はすぐに作品を外す配慮が必要である。長期間作品に直接触れるマット紙や台紙には、木材パルプを含まない中性の紙を選択すべきである。



図1 修復前 表

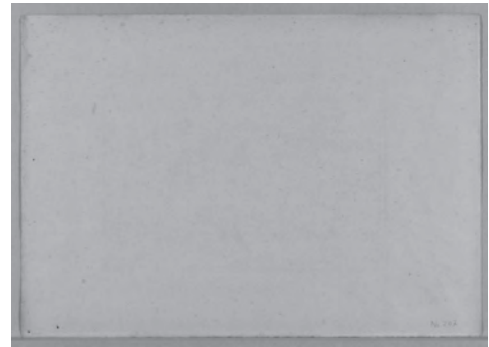


図2 修復前 裏（台紙裏面）



図3 修復後 表



図4 修復後 裏



図5 修復中 ドライクリーニング



図6 修復中 脱酸処置

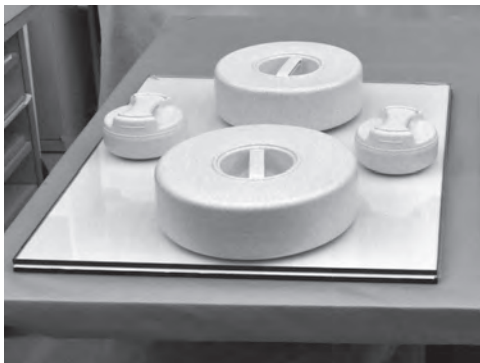


図7 修復中 プレス乾燥



図8 修復前 台紙のしみ（左下）

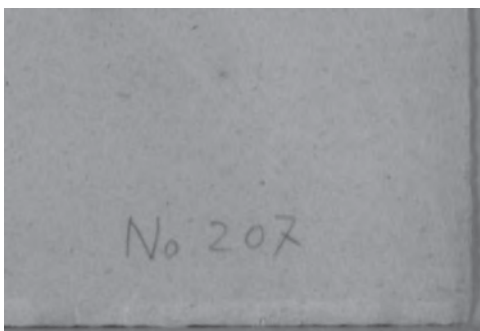


図9 修復前 台紙裏面（図8と同位置）



図10 別作品のマットのしみ

修復報告 2

増田絵画修復工房 増田久美

作者：中野 淳

作品名：とりのある食卓

制作年：1957年

材料・技法：油絵具、カンヴァス

寸法(mm)：修復前 750 × 975 × 20

修復後 750 × 980 × 20

修復前の所見

支持体は白色の地塗りが施された既製の亜麻布カンヴァスであった。左辺以外の3辺は張り代の端まで描画が続いていることから、現在の寸法より大きかった作品を切断して、木枠に張り直したものと考えられた。画面中央を横断する直線状の筆致等、描画内容と一致しない筆致が全体に見られること、裏面に墨で「運河風景」（二重線で打ち消されていた）と書き込みがあること、貼付された紙片ラベルに「ふたり」とあることから、本作品の下層には別にふたつの絵が描かれている可能性がある（図1）。また白チョークの書き込み「カワイイマセン」は、出品に際しての注意書きと思われる（図2）。

木枠はおそらく50号M型の長手を切り詰めて組み直したと考えられ、天地方向に1本入っている中棧の位置が中央ではなく、裏面から見て左側にずれていた。楔穴はなかった。上枠の左右組み部分と右枠には冠水被害のしみ跡があった。上枠に油性ペンで「個展出品 鳥のある食卓 1957年 旧画集掲載」、中棧に墨で「自由美術 杉並区東田町一ノ四 中野淳」（二重線で打ち消されていた）と書き込みがあり、作者本人によるものであることから木枠は修復では再使用することとした（図2）。

左辺の張り代は上部半分近くが欠損し、残りも固定の釘が錆びて木枠から外れており、カンヴァスにたわみと縮みが生じていた。冠水被害を受けたと考えられ、地塗り層とカンヴァスの固着状態は脆弱で、剥落部分はカンヴァスの亜麻布が露出していた。絵具層はペインティングナイフを多用して塗り重ねられ、画面端に近い部分の灰色の絵具層には亀裂が生じていた。張り代まで描画が続く3辺は、折り曲げ部分や釘穴の周囲に浮き上がりや剥落が多数生じていた。これら冠水被害を受けた部分および張り代以外には、絵具層に目立つ損傷は見られず全体状態は安定していた。

ワニスは刷毛塗りされ、光沢がやや強く塗りムラがあったが黄変等は見られなかった。裏面に絵具層の亀裂からしみ出した跡があることから、後補によるものと考えられた。

修復処置

1. 作品の状態を調査し、修復処置前後と処置途中の状態を撮影、記録した。
2. 接着剤に膠水（チョウザメ膠5%）を使用して、絵具層と地塗り層の亀裂、浮き上がり、剥落を電気コテで加温接着した。張り代部分はレーヨン紙を当てて膠水（チョウザメ膠3%）を含浸し、電気コテで加温接着して固着強化を図った。
3. ワニスは黄変が見られなかったことから除去せず、表面の埃を羊毛刷毛で払った後、付着していた汚れを希アンモニア水（1.5%）で除去した（図5）。

4. 木枠からカンヴァスを取り外した。張り代を固定していた釘は、引き抜く時に崩れてしまうほど錆が進行していた。裏面はカンヴァスと木枠の隙間に塵埃が溜まり非常に汚れていた。白チョークや墨の裏書を消さないように避けて、カンヴァスの織目に沿って豚毛刷毛で塵埃を掻き出し掃除機で吸い取った。殺菌処置を兼ねてエタノール水（容量比8:3）を含ませた木綿布で拭き清めた（図6）。
5. 木枠はいったん解体し、水拭きして汚れを落とした後、エタノール水（容量比8:3）で殺菌した。複数回使い回されて釘穴が多数開いていたため、釘穴をエポキシ樹脂系木工用パテで充填した（図7）。
6. カンヴァスの変形は裏面から加湿して電気コテとアイロンで加湿しながら修正し、重石を乗せてプレスした。状態を観察しながら処置を繰り返し、安定した後に張り代に新しく亜麻布をBEVA371シート（ホットメルト型フィルム接着材）で接着して補強した（図8）。張り代の絵具層をレーヨン紙で表打ちして保護し（接着剤にはメチルセルロースを使用）、ステンレス製ステーブルで木枠に張り直した（写真4）。
7. 絵具層および地塗り層の欠損部分を充填し（Zecchi 社 Stucco per Restauro）、周囲のマチエールに合わせて整形した（図9）。
8. 周囲の色彩に合わせて充填部分に透明水彩絵具で下補彩をした後、仕上げの補彩を修復用溶剤型アクリル絵具で行った（図3）。

修復後の所見

絵具層および地塗り層の損傷部分を接着し、張り代を補強して木枠に張り直したことにより、作品は安定した状態を得た。また、張り代の絵具層を表打ちで保護したことで、作品を安全に取り扱うことができるようになった。画面の左右辺の剥落部分を充填、補彩をして鑑賞しやすくなった。



図1 修復前 表



図2 修復前 裏



図3 修復後 表



図4 修復後 裏 張り代の絵具層を表打ちして保護した



図5 修復中 画面の洗浄 コットンに付着した汚れ



図6 修復中 木枠取り外し後 右辺の張り代が破れて欠損していた



図7 修復中 木枠の釘穴の充填



図8 修復中 張り代の補強



図9 修復中 充填整形後

修復報告 3

橋口由依

修復者:株式会社文化財ユニオン 関矢健男

作者:堀内正和

作品名:横の作品

制作年:1952年

材料・技法:セメント、鉄

寸法(mm):570×1600×680

作品の概要と来歴

本作は「第2回野外創作彫刻展」(1952年、日比谷公園)に《横たわる》として出品された。「野外創作彫刻展」は日本彫刻家連盟の提言により1951年に始まった戦後初の本格的な野外彫刻展である。東京都が主催、小野田セメント株式会社が後援となり、出品作家には材料として白色ポルトランド・セメント(通称:白セメント)が提供された。本作はその白セメントを用いて制作されたと考えられる。展覧会の終了後、長年作家宅で保管されていたが、2017年に破損した状態で当館へ寄贈された。

堀内は第3回、第4回の「野外彫刻創作展」にも参加し、そのほかにも鉄熔接彫刻に取り組み始める1954年までにセメントの直付けによる抽象彫刻を数点制作している。しかし、それらのセメント彫刻の多くは破損し現存せず、堀内自身の手による大型作品としては本作が唯一の現存する作品である(註1)。

修復前の所見

本作は長年屋外で保管されていたため、経年劣化による損傷が著しく、全体的に汚損し白セメントの特徴である明るさを損なっていた。鉄製の芯棒や金網にセメントが直付けされているが、そのセメントの層が非常に薄いため、錆びて膨張した鉄がセメントを押し出し、亀裂や破損を引き起こしている。

発表時の作品名が示す通り、本作は横たわる人物像をデフォルメした作品だが、人物の右腕にあたる部分が折損し、本体から完全に分離してしまっていた(図1、3)。折損部が本体と繋がっていた箇所は大きく欠け、作品から当初の状態を推測して接合することは困難であった。幸い『美術手帖』1952年6月号に「第2回野外創作彫刻展」での本作の展示風景が掲載されていたので、この写真を参考にして修復することにした。底面はほとんど空洞になっており、鉄製の金網が露出していた。セメントを薄付けした軽やかな造形は本作の魅力であるが、屋外に長期間設置するには脆弱な構造であったと思われる。

脚部の先端の辺りは周辺部より一段低くなっており、他の部分と比べてきめ細かい異質なセメントが用いられ、線刻が施されていた(図4)。周辺部との段差や他の部分に線刻が見られないことから、少なくともこの部分は当初セメントが2層構造になっており、線刻は上層のセメントの食いつきをよくするためのものと推測される。

修復処置

葉山館敷地内で関矢健男氏(株式会社文化財ユニオン)が次の処置を行い、橋口由依が立ち会った。修復の前には簡易3Dスキャンを行った(使用機材:iPhone 13 Pro、使用アプリ:Trnio Plus)(図1、2)。

1. 修復前の撮影 修復前の作品の状態を記録するため写真撮影を行った。
2. 乾式洗浄 付着物や表層の粉塵を軟質ブラシで大まかに除去した。砂目にこびりついた粉塵はとれず、全体的に黒ずみ、色むらが残った。
3. 鉄製芯材の防錆処置 爆裂箇所や鉄筋が露出している部分に、錆転換型プライマーを2回に分けて塗布し、錆を安定的で緻密なマグネタイトに転換する処置を施した(図5)。
4. 折損部分接合 発表当初の作品の写真(図1)を参考にしながら、もとの形状を推測し、エポキシ樹脂接着剤を用いて破損部分を接合した(図6)。
5. 埋め戻し処置 亀裂に注射針を用いてエポキシ樹脂を注入し接合した(図7、8)。欠損部分にはシラン・アクリル樹脂溶液を主成分とするモルタルバインダーを充填し、周辺部にあわせて整形した(図9)。
6. 湿式洗浄 全体にアルカリ電解水を吹きかけ、軟質ブラシを用いて乾式洗浄でとれなかった汚れを除去し洗い流した(図10)。これにより当初の姿に近い明るい灰白色となった。
7. 補彩 周囲の色彩にあわせて、充填部分に水性アクリル絵具で補彩を施した。
8. セメント部の塗布含浸強化 強度が低下している箇所にシランのアルカリ金属珪酸塩水溶液を全体に塗布含浸、固化させて補強した。
9. 撥水処置 屋外への設置を想定し、雨水による芯材の錆の進行と表面の劣化を予防するため、特殊珪酸質含浸剤を全体に塗布含浸し、撥水コーティングを行った(図11)。
10. 修復後の撮影 修復前と同様に作品の状態を記録するため写真撮影を行った。

修復後の所見

修復を経て制作当初の姿に近づき、作品として全体が鑑賞できるようになった。セメント部の含浸強化と撥水加工により、作品の耐久性も向上した。本作は屋外での展示を想定して制作された作品だが、脆弱な構造と屋外の環境の過酷さを考慮して、今後は主に屋内での展示により活用していく予定である。屋外で展示する場合は短期間に限定するなど、展示方法を検討する必要がある。また、今後も錆の進行状況や撥水コーティングの効果を定期的に確認し、必要に応じてメンテナンスを行っていききたい。

註記

1) 堀内正和『ユーレーカ 堀内正和 作品資料集成』美術出版社、1996年

※公益財団法人戸部真紀財団の2022年度研究助成を受けて修復した。



図1 修復前 全図 (3Dモデル)

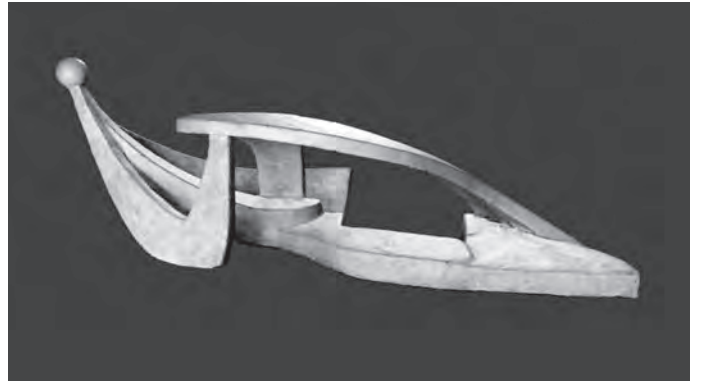


図2 修復後 全図 (3Dモデル)



図3 修復前 折損部 錆びた鉄芯が露出している

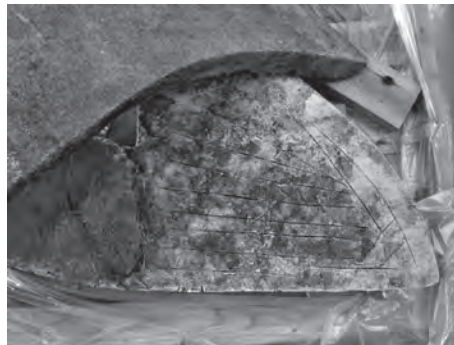


図4 修復前 線刻が見られる部分



図5 修復中 刷毛で錆転換型プライマーを塗布した



図6 修復中 折損部の接合前



図7 修復中 細かな亀裂には注射器を用いてエポキシ樹脂を注入した



図8 修復中 大きな亀裂にはシーリングを施し注射器を用いてエポキシ樹脂を注入した



図9 修復中 欠損部をモルタルバインダーで充填し整形した



図10 修復中 アルカリ電解水による湿式洗浄



図11 修復中 撥水コーティングを施した

2022(令和4)年度 修復作品一覧

[凡例]

- ・寸法の単位はcmである。
- ・修復担当の記載のあるものは外部委託、ないものは当館修復担当研究員 伊藤由美と修復担当学芸員 橋口由依が行った。

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	修復担当
油彩画・アクリル画など							
麻生三郎	ある群像3	1970	油絵具、カンヴァス	194.0	130.0		
上田 薫	ビンの底A	1984	油絵具、カンヴァス	130.3	130.3		有限会社 修復研究所二十一
刑部 人	山畑	1961	油絵具、カンヴァス	50.3	65.1		
川村直子	'69-A	1969	アクリル絵具、板にカンヴァス	148.5	147.2		
川村直子	'69-B	1969	アクリル絵具、板にカンヴァス	150.3	150.1		
佐伯祐三	滞船	1926	油絵具、カンヴァス	53.0	65.0		
佐野繁次郎	モナリザ	1962	油絵具、カンヴァス	99.6	80.8		
タイマンズ、リュック	無題	2000	油絵具、カンヴァス	29.0	39.5		
中野 淳	風景(B)	1952	油絵具、カンヴァス	72.9	100.1		増田絵画修復工房
中野 淳	とりのある食卓	1957	油絵具、カンヴァス	75.0	98.0		増田絵画修復工房
藤島武二	T氏肖像	1909	油絵具、板にカンヴァス	34.9	26.0		
フランシス、サム	Shimizu Target	1960	アクリル絵具、紙	75.5	56.7		
ボルケ、ジグマー	無題	1985	アクリル絵具、紙	100.0	75.0		
松本竣介	建物	1935	油絵具、板に紙	97.1	130.3		
松本竣介	構図	1941	油絵具、厚紙	21.7	26.9		
松本竣介	自画像	1941	油絵具、板	33.2	23.8		
横尾龍彦	黎明	1983	油絵具、カンヴァス	96.4	127.5		
横尾龍彦	臥龍	1988	油絵具、カンヴァス	150.5	150.4		
横尾龍彦	アポカリプス	2001	ミクストメディア、カンヴァス	200.0	200.0		
リヒター、ゲルハルト	トライスター	1981	塗料、レコード盤	17.5	17.5		
リヒター、ゲルハルト	カッセル	1992	エナメル塗料、オフセット印刷、紙	15.9	23.5		
リヒター、ゲルハルト	8.2.92	1992	油絵具、写真	10.0	15.0		
リヒター、ゲルハルト	20.8.94	1994	油絵具、写真	10.0	15.0		
リヒター、ゲルハルト	14.12.94	1994	油絵具、写真	10.0	15.0		
リヒター、ゲルハルト	14.12.94	1994	油絵具、写真	10.0	15.0		
素描・水彩画など							
麻生三郎	裸	1950	水彩絵具、コンテ、黒インク、ペン、紙	44.2	31.7		
横尾龍彦	流星の時	1973	グアッシュ、和紙	60.5	76.0		
横尾龍彦	錬金術師	1973年頃	グアッシュ、和紙	61.1	76.6		
リヒター、ゲルハルト	13.02.97 Glasses	1997	水彩絵具、紙	11.8	10.7		
リヒター、ゲルハルト	16.02.97 Profile	1997	水彩絵具、紙	15.0	13.1		
リヒター、ゲルハルト	22.02.97 Golf	1997	水彩絵具、紙	11.6	16.3		
写真・印刷物							
ボルケ、ジグマー	テレビジョン・ピクチャー(サッカー選手)	1971	オフセット印刷、ボード	64.0	84.0		
リヒター、ゲルハルト	スパーク	1970	オフセット印刷、厚紙	46.9	64.9		
リヒター、ゲルハルト	アブストラクト・フォト	1989	ゼラチン・シルバープリント、紙	49.7	69.6		
リヒター、ゲルハルト	ファースト・ビュー	2000	オフセット印刷、紙(ボードに貼付)	18.2	15.1		
彫刻・インスタレーション							
デュシャン、マルセル	彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁、さえも(グリーン・ボックス)	1934	94 枚の複製写真、ドローイング、メモ、銅板、紙	33.2	28.0	20.0	
デュシャン、マルセル	マルセル・デュシャンあるいはローズ・セラヴィの、または、による(トランクの箱)	1954-58	デュシャン作品のミニチュア・レプリカ、写真、布縫師の箱	37.7	40.0	92.0	
ナッシュ、デイヴィッド	二つの器	1993	木(カバ)	200.0	60.0	39.5	
パン、マルタ	風景のためのモデル	1991	大理石	6.0	30.0	45.5	
堀内正和	横の作品 ※	1952	セメント	57.0	160.0	68.0	株式会社 文化財ユニオン
若林 奮	地表面の耐久性について	1975	鉄	45.5	182.7	549.0	

※公益財団法人戸部眞紀財団の2022年度研究助成を受けて修復した。

美術作品の状態記録を目的とした簡易3Dスキャンの活用

橋口由依、本田秀行

はじめに

美術作品を長期的に保存するため、美術館では適宜作品を点検しその状態を記録している。当館では、状態記録表に損傷や取り扱い上の注意点を書き込み、それだけでは不十分な場合には写真を撮影することによって作品の状態を記録してきた。しかし、平面的な方法によって、彫刻作品など立体物の状態をもれなく記録するのは困難であるため、2020年以降、3Dスキャンによるデータ化技術（以下、「3Dスキャン」という）を用いて、彫刻作品を立体物としての構造がわかるかたちでデータ化することを試みてきた。本稿はその試行錯誤によって得られた知見を、3Dスキャンの初心者に向けてまとめたものである。

1. 簡易3Dスキャンの概要

近年、3Dスキャンは急速に発達し、文化財分野においても、建造物や埋蔵文化財の調査研究に導入された事例が多数報告されている。2020年前半までは、文化財の調査のために開発された機材を用いた事例がほとんどであったが、2020年10月にLiDARセンサを搭載したiPhoneが発売され^(註1)、以後、スマートフォンによる3Dスキャン（以下「簡易3Dスキャン」という）を活用した事例が増加した。神奈川県立の博物館では、生命の星・地球博物館が当館と同じシステム構成で簡易3Dスキャンを行っている。簡易3Dスキャンは、文化財向けに開発された高性能な3Dスキャナと比べて、品質も処理速度も劣るが、非常に安価で導入しやすい。損傷の有無など、状態の変化を確認するために参照するものとしては、簡易3Dスキャンで作成した3Dデータでも十分に使える。

簡易3Dスキャンには、フォトグラメトリによるものと、フォトグラメトリとLiDAR (Light Detection And Ranging) を併用するものがある。フォトグラメトリは、さまざまな角度から撮影した画像をもとに3Dデータを作成する技術であり、フォトグラメトリによって作成された3Dデータは被写体の形状と色情報をあわせもつ。LiDAR センサが搭載されていない端末でも、最新のOSに対応した機種であれば、フォトグラメトリによる3Dスキャンを行うことができる。LiDARは被写体にレーザー光を照射し、その反射光をもとに被写体までの距離や被写体の形状を計測する技術である。LiDARは被写体の周囲の環境（明るさや色など）の影響を受けにくく、フォトグラメトリよりも精度が高いが、LiDARによって作成された3Dデータには被写体の色情報が含まれない。そのため、色や質感もデータ化したい場合には、フォトグラメトリを使うか、フォトグラメトリとLiDARを併用することになる。LiDARセンサを搭載した端末であれば、フォトグラメトリとLiDARを併用することで、より高精度な3Dデータを作成することができる。

当館は2020年8月頃より、一眼レフカメラと写真計測ソフト3DF Zephyr (3D FLOW社)^(註2)を用いて、フォトグラメトリによる3Dデータの作成を始めた。その後、簡易3Dスキャンが普及し、両者を比較した結果、後者の方がより安価かつ簡単であったので、2022年以降はiPhoneを用いて簡易3Dスキャンを行っている。

2. 3Dスキャンアプリ

簡易3Dスキャンを行うには、スマートフォンやタブレットに3Dスキャンアプリをインストールする必要がある^(註3)。様々な3Dスキャンアプリが公開されているが、撮影（スキャン）の手順は多くのアプリに共通している。被写体を撮影した後、クラウド上もしくは端末上でデータが処理され、できあがった3Dデータが閲覧可能となる。

多くのアプリはUIに優れ、どこに端末を向けるべきかがわかりやすく示されるので、使用者は直感的に撮影することができる。フォトグラメトリによる3Dデータの作成には、各画像の重なりが7割程度必要とされる。そのため、被写体に対して一定の距離と角度を保ちながら、螺旋を描くように移動して撮影するとうまくいきやすい。

撮影したデータをクラウド上で処理するアプリ（以下「クラウド型」という）は、撮影後、データをクラウドにアップロードするため、端末をインターネットに接続する必要がある。端末のカメラの性能などによって異なるが、撮影したデータは数百枚分の画像ファイルと同程度の容量となるので、Wi-Fiに接続した状態でのアップロードが推奨されている。クラウド型のアプリでも撮影と閲覧はオフラインで行えるが、撮影後すぐに3Dデータを確認できないのは不便である。

端末上で処理するアプリ（以下「ローカル型」という）は、電波の届かない場所やインターネットに接続できない環境下でも3Dデータを作成することができる。ローカル型の方が使い勝手はよいが、クラウド型に比べて数が少なく、若干精度が劣っていると感じた。

これまでに使用したアプリの中で、特に優れていたのはTrnio Plus (Trnio社)^(註4)である。Trnio Plusは、フォトグラメトリによる3Dスキャン、およびフォトグラメトリとLiDARを併用した3Dスキャンに対応したクラウド型のアプリで、インストールは無料だが、クラウド上の処理は有料だった。安定して高品質な3Dデータを作成することができたが、残念ながら2023年6月30日にサービスを停止した。その後、当館では主にScaniverse (Niantec社)^(註5)を使用している。こちらは現在iOS端末で利用可能なアプリのうち唯一のローカル型で、完全に無料で使うことができる。

3. 3Dスキャンの留意点

近現代の彫刻作品に使用される主な素材のうち、3Dスキャンに適した素材とそうでない素材を表にまとめた。鏡面素材やガラスで制作された作品は、特殊な塗料や粉末を塗布しない限り、専門家が最先端の機材を使用してもスキャンするのは難しい。素材のほか、作品の見た目の構造もスキャンの成功率を大きく左右する要素である。単純な構造であるほどスキャンしやすく、複雑で入り組んだ構造のものはスキャンしにくい。

表

◎	光沢がないもの 例：磨かれていない木や石、テラコッタ
○	微光沢があるもの 例：磨かれた木や石、磨かれていない金属、ブロンズ、プラスチック
×	強い光沢があるもの、光が透過するもの 例：鏡面素材、ガラス

微光沢のあるものは、端末のカメラに偏光フィルタを装着することで、スキャンの精度を改善することができる。また、写真撮影と同

様に、陰になっている部分はスキャンしにくい。端末にライトを装着することで、より鮮明な3Dデータが得られる場合もある。

簡易3Dスキャンは非破壊・非接触型の技術だが、端末と作品が接触する事故を防ぐため、3Dスキャンを始める前に周囲の障害物を取り除き、可能であれば作業者と監視者のふたり以上で作業を行うのが望ましい。大きな作品を被写体とする場合には、自撮り棒のような撮影補助機材や脚立を使用する。ターンテーブルに作品を乗せるという方法もあるが、よほど安定性の高い作品でない限りは、撮影者が作品の周囲を移動する方が安全だろう。

4. 3Dデータのファイル形式

画像データと同様に3Dデータにも様々なファイル形式があり、用途に応じて使い分けられている。美術作品の状態記録として使用する3Dデータのファイル形式は、形状と色情報をあわせもつものではなくてはならない。形状と色情報を含むファイル形式のうち、汎用性が高く扱いやすいのはOBJである。OBJの3Dデータを作成すると、OBJとあわせてJPEGやTIFFなどの1つ以上の画像ファイル、そしてOBJと画像ファイルを紐づけるMTLが作成される。これらの3種のファイルがそろって初めて形状と色情報をもつ3Dデータとなる。

Apple社の端末を主に使うのであれば、USDZというApple社が推進しているファイル形式が便利である。これはUSDZ単体で成り立つため管理しやすいが、Apple社以外の端末やアプリケーションでは対応していないものが多い。

5. 3Dデータの保管と閲覧

多くの3Dスキャンアプリでは、そのアプリで作成した3DデータをOBJ、USDZなどの他のファイル形式でエクスポートすることができる。エクスポートしておけば、3Dスキャンアプリが使えなくなっても3Dデータを扱うことができる。

3Dデータを活用するためには、画像データと同様に、美術館内でデータを共有・保管し、職員が3Dデータを閲覧可能な環境を整える必要がある。当館では、作品と3Dデータを見比べられるよう、可搬性の高いタブレットにデータを保存し、バックアップとしてDVDなどの記録媒体にデータをコピーしている。3Dデータの可用性を長期的に維持することについては、画像などほかのデジタルデータと同様に課題がある。

PCで3Dデータを閲覧するには、3Dに対応したソフトウェアを使用する。Windows OS 10以降では3Dビューア (OBJほか6種の3Dファイル形式に対応)^(註6)が、Mac OS10.11以降ではプレビュー (色情報を含む3Dファイル形式ではUSDZのみ対応) が、標準ソフトとして搭載されている。

これらの標準ソフトに対応していないファイル形式の3Dデータを閲覧したり、ファイル形式を変換したりするには、3Dデータの編集機能に特化したソフトが別途必要となる。信頼性が高く、高機能なオープンソースの各種ソフトが公開されており、費用をかけずに導入することができる。3Dデータを扱うPCの仕様としては、グラフィックボードを搭載していることが推奨されている。

おわりに

当館では、これまでに数十点の彫刻作品に対して簡易3Dスキャンを行った。簡易3Dスキャンを従来の方法と併用することにより、彫刻作品の全体的な状態を短時間で記録することができるようになった。

しかし、簡易3Dスキャンによって作成されたデータには、多かれ少なかれ、欠けや歪み、ピントのずれが存在している。実物を前にして3Dデータを参照し、状態の変化を確認するという使い方をする分には有用であるが、3Dデータから新しい情報を得ようとすると、間違いが生じる恐れがある。簡易3Dスキャンによる3Dデータは、あくまで簡易的なものであり、正確さに欠けていることを理解した上で活用することが重要である。

註記

- 1) LiDAR センサは 2020 年以降に発売された iPhone Pro と iPhone Pro Max、iPad Pro に搭載されている。
- 2) 3DF Zephyr では簡易 3D スキャンよりも高精度の 3D データを作成できたが、高性能の PC が必要だった。
3DF Zephyr 公式サイト、
<https://www.3dflow.net/3df-zephyr-photogrammetry-software/>
- 3) 2023年6月に Apple 社の製品発表 (WWWC) において、iPhone の次期 OS に 3D スキャンアプリが標準搭載されると発表された。このアプリの公開後、性能を検証する予定である。
- 4) Trnio Plus 公式サイト <https://www.trnio.com/>
- 5) Scaniverse 公式サイト <https://scaniverse.com/>
- 6) Windows 11 では 3D ビューアが標準搭載されておらず、個別にインストールする必要がある。

参考文献など

- ・ 金田明大「3次元技術等によるデジタル技術の導入」『奈良文化財研究所研究報告』第21冊、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所、2019年、pp.13-20
- ・ 野口 淳「三次元データの可能性—活用と課題—」『奈良文化財研究所研究報告』第24冊、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所、2020年、pp.59-70
- ・ きゃんばすクラスタ【フォトグラメトリ】3DF Zephyr の使い方」2020年8月15日、<https://youtu.be/5i8sa13F64U>
- ・ 加藤俊吾「ミュージアムにおける 3D モデルの公開—大阪歴史博物館の場合—」『奈良文化財研究所研究報告』第27冊、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所、2021年、pp.104-109
- ・ wama【初心者向け】iPhone 3D スキャンパーフェクトガイド」2022年6月21日公開、2023年2月3日更新、<https://note.com/iwamah1/n/n48a549845ae3>
- ・ 山口啓志「国内におけるフォトグラメトリの応用」『月刊文化財』719号、第一法規、2023年、pp.21-25
- ・ 山船晃太郎「外国におけるフォトグラメトリの応用—水中考古学での実践と課題」『月刊文化財』719号、第一法規、2023年、pp.26-30
- ・ 「iwama@iPhone で 3D スキャンする人」<https://twitter.com/iwamah1>

美術館資料の保存と活用

—2022年のアーカイブ事業と美術資料の公開について

長門佐季

2017年度に立ち上げた当館のアーカイブ事業は、2019年度の鎌倉別館リニューアルを機にウェブサイト上で順次公開をはじめ、約3年が経過した。2020年と2021年は新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で問い合わせや利用の数は減少していたが、2022年度はわずかではあるものの回復傾向がみられた。

2022年度は新規のアーカイブ資料の受け入れがなかったことから、既存資料の公開に重点を置いて作業を進めた。具体的には、2021年度から継続してきた斎藤義重旧蔵資料のうちの図書資料（斎藤義重文庫）4,667件（和書3,447件、洋書825件、和雑誌339タイトル、洋雑誌56タイトル）のウェブサイト上でのリスト公開が完了した。斎藤義重（1904-2001）は、戦前から前衛的な芸術を試み、戦後は日本の現代美術のパイオニアとして活躍して、国内外で高い評価を得た。多摩美術大学やBゼミ、東京芸術学校（TSA）などで教鞭をとり、多くの作家を育てた教育者としても知られ、その資料は戦後日本の現代美術を研究する上で重要な意味をもつ。斎藤義重旧蔵資料は2001年に作家が亡くなった後、2002年にご遺族より寄贈を受け、2004年に葉山館で「斎藤義重文庫展」として、斎藤撮影の写真や素描、マケットといった一部の作品と資料の紹介を行ったが、その後、図書資料を斎藤義重文庫、それ以外を斎藤義重アーカイブと整理し、2017年から2年にわたり、文化庁の「平成29年度我が国の現代美術の海外発信事業」に採択されたことで、書簡、ノート、手帳、写真などの資料の再整理と画像の一部デジタル化が実現した。そして、このたび寄贈から20年という時間を要したが、ようやく斎藤義重文庫のリスト公開にこぎつけることができた。ただし、斎藤義重アーカイブには、記録写真や35mmリバーサルフィルムほか、新聞の切り抜き、講義や制作に関するメモなどの整理過程の資料が残されており、それらの文字情報と画像の公開は引き続き今後の課題となっている。

一方、当館が掲げるアーカイブ事業の4つの柱（建築資料、展覧会資料、イベント資料、作家資料）のうち、上記をはじめとする作家資料とともに重要な柱となっているのが展覧会資料である。2021年度に70周年を迎えた当館に保存されている過去の展覧会資料は膨大である。それらの資料をデジタル化し公開していく作業は容易ではないが、着実に進めており、その取り組みのひとつとして、2022年度は前年度開催した展覧会のポスター画像12件と、展覧会会場風景の画像1,217件をウェブ上で公開している。なお、一次資料のデジタル化については、2021年度から継続事業として科学研究費（研究成果公開促進 課題番号21HP7001）の補助を受けている。

2022年度の外部研究者などによるアーカイブ資料の活用のおもな事例としては、次のものがある。

- ・堀内正和資料の調査（日記、ノートほか、展覧会資料）
- ・当館で開催されたスペイン版画の展覧会に関する調査（印刷物）
- ・末松正樹資料の調査（手帳）
- ・「ふたたびの出会い 日韓近代美術家へのまなざし—『朝鮮』で

描く」展資料の調査
など合計11件90点。

2022年度は、アーカイブ資料の特集展示や紹介は当館での展覧会において行われなかったが、今後も精度の高い情報と公開件数の増加を目指し、外部の研究者への利便性を高めるとともに、当館においても展覧会の内容に応じて活用されていくよう資料整理とデータ公開につとめていく。

調査研究活動

調査・研究報告

松本竣介の《立ち話》ともう一人のグロス

長門佐季

2022年は松本竣介の生誕110年にあたる。神奈川県立近代美術館では、1958年に公立美術館での初の展覧会を島崎雞二との二人展のかたちで開催して以来、折に触れて松本竣介を取り上げてきた。近年では、2012年に全国5つの美術館を巡回した生誕100年を記念する回顧展を葉山館で行ったのをはじめ、2017年には鎌倉別館を会場に当館所蔵の竣介作品を全点展示した「松本竣介 創造の原点」を開催している。2022年度に、鎌倉別館で開催した「生誕110年 松本竣介」展では、当館が収蔵する松本竣介の油彩画、素描に加え、それらの作品に関わる資料、とりわけ竣介が妻・禎子と協働して1937年に創刊した雑誌『雑記帳』に注目し、その関連作家による挿画原画、葉書などの資料を展示しながら、作品が制作された背景となる時代や周囲の人との繋がりを示そうと試みた(図1)。本稿では、今回の展覧会を通じて新たに確認された資料とそれに関係する作品について紹介する。

本展で展示した資料のなかに、ご遺族のもとに残されていた松本竣介のファイルとスクラップ帳がある。紙製のファイルには、美術雑誌から切り抜いたと思われる海外作家の図版や絵葉書が収められている。作家ごとに分けられた、キリコ、ルオー、モディリアーニ、ブラック、ドガ、キスリング、ボナール、ルノワール、ロートレック、シャガール、ユトリロ、ルソー、ドラム、ミロといった画家たちの名がそれぞれ記されている。図版は多い作家で十数点、少ない作家でも数点あり、1930年代後半の竣介の関心のありようを知る上で重要なものである。クラフト紙を折り畳んだ手製のスクラップ帳には、表紙や背にピカソ、マチス、デュフィと名前が書かれて、図版は1ページに1点ないし2、3点が貼り込まれた簡単な画集のような作りになっている。注目の度合いによってファイルとスクラップ帳が使い分けられていたのかもしれない。いずれにしても図版のほとんどは当時、美術雑誌や画集で取り上げられている画家である



図1 「生誕110年 松本竣介」展会場風景、2022年

撮影：筒口直弘

が、そのなかに「John Groth」というあまり見かけたことのない名前の記されたスクラップ帳が1冊あった(図2-1)。

竣介が影響を受けたとされる画家の一人にドイツ出身の諷刺画で知られる画家ジョージ・グロス (George Grosz, 1893-1959) がいるが、ジョン・グロス (John August Groth, 1908-1988) については、これまでほとんど言及されたことはない。ちなみに、カ



図2-1 松本竣介手製のスクラップ帳
「John Groth」 個人蔵



図2-2

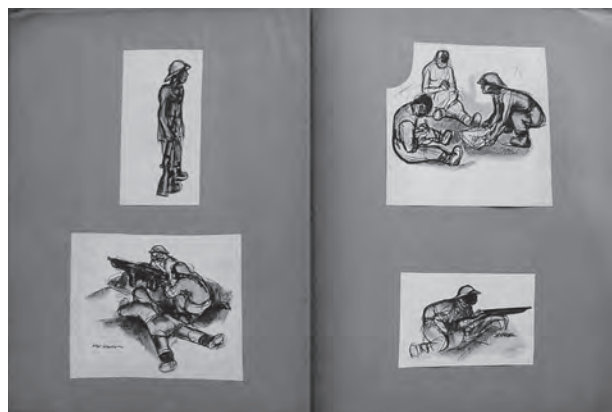


図2-3



図2-4

タカナで表記すると二人とも「グロス」であるが、綴りは異なる。ジョン・グロスはシカゴ出身のアメリカの画家であり、イラストレーターであった。シカゴのアート・インスティテュートで学んだ後、雑誌『エスカイア (Esquire)』の初代編集長アーノルド・ギングリッチに見出され、1933年の創刊から1937年まで同誌の初代アートディレクターを務めた。それ以前にはスポーツライター兼イラストレーターをしていた経験があり、速写による人体表現を得意とした。『エスカイア』は世界初の男性向け雑誌として創刊され、現在も続いている。毎号200ページ前後の誌面で取り上げられている当時の内容は、時事的な問題から小説、詩、批評、スポーツ、漫画、芸術など多岐にわたり、寄稿者にはアーネスト・ヘミングウェイやアンドレ・ジイドなどの小説家のほか、イギリスの進化生物学者のジュリアン・ハクスリーなどがある。なお、1933年にアメリカに亡命したジョージ・グロスも『エスカイア』とは関係があり、ジョン・グロスが在籍していた1936年に同誌と契約を結び、1939年までに116点の挿画を提供している。ジョン・グロスは、『エスカイア』を離れた後、『シカゴ・サン (Chicago Sun)』の記者を経て、戦争特派員あるいはフリーの従軍画家となって第二次世界大戦中のヨーロッパ、大戦後の朝鮮半島、仏領インドシナ、ベルギー領コンゴ、ベトナムなどに赴いて取材を行っている。

今回、ジョン・グロスという名を手掛かりに『エスカイア』のバックナンバーを調べたところ、竣介のスクラップ帳に貼られたグロスの図版10点すべてが1935年12月号

(図4-1~5)に掲載された挿画であることがわかった。さらに、そのなかの1点(図4-5右)の人物は、当館所蔵の《立ち話》(図3)に描かれている人物に似ていることから、本作を制作するにあたって竣介が参考にしたと考えられる。《立ち話》は、縦29.2cm、横23.8cmの合板に貼られたカンヴァスに褐色系の油



図3 松本竣介《立ち話》1937年
油彩、カンヴァス(合板に貼付) 当館蔵

絵具で描かれた作品で、当館が1991年に購入している。画面の表裏に年記はなく、出品歴も明らかではないが、制作年は収蔵当時から1937年頃とされている。一方、グロスの作品は小説家セオドア・プラットによる短編「Cocks Must Fight」のための挿画で、雄鶏が描かれており、黄色一色の背景に走る黒い線はドライポイントによるものであることが誌面に記載されている。グロスと竣介の絵を比較すると、人物の配置はほぼ同じであるが、グロスの作品では、向かい合っている二人の人物はそれぞれ雄鶏を抱えている。一方の《立ち話》では雄鶏は省かれ、二人の人物の手前に後ろ向きの人物が一人付け加えられている。ところで、この三人の人物は果たして立ち話をしているのだろうか。《立ち話》というタイトルが竣介自身によるものかどうかは定かではなく、その画風からジョージ・グロスに影響を受けて都市と人物が重層的に描かれたモンタージュ風の作品の断片のようにとらえてきたが、どうもそういうことではなさそうだ。



図4-1 雑誌「エスカイア」1935年12月号
表紙



図4-2 pp.34-34 ジョン・グロス(画)、ロバート・ブッカー(著)「The Door to Adowa」



図4-3 pp.60-61 ボール・ウェブ(画)



図4-4 pp.62-63 ジョン・グロス(画)、ロイ・ボール(著)「Autumn the Seventeenth」



図4-5 pp.94-95 ジョン・グロス(画)、セオドア・プラット(著)「Cocks Must Fight」

雑誌は1935年の12月号であるから、竣介がこの雑誌を手にしたのは早くても1936年頃であっただろう。ちょうどこの頃、竣介と禎子は「綜合工房」を作って雑誌『雑記帳』の発行に奔走していた。満州事変から日中戦争へと傾斜していく時代のなかで、画家は時代への危機感を『雑記帳』の出版というかたちをとって、一人の生活者という立場から日常生活の諸相を見つめようと試みたのだった。そうした取り組みは当時アメリカで出版された雑誌『エスカイア』にも通じるところがあることから、この雑誌を参考にしようとしたとも考えられる。いずれにしても、竣介はジョン・グロスのどこに魅かれたのであろうか。時代をとらえた諷刺的な要素か、あるいは人物たちを生き生きと描く線だろうか。

のちにジョン・グロスが自ら戦地に行き、戦時下生きる人々の日常を描いたことを当時の竣介が知る由もないのだが、雑誌に掲載されたジョン・グロスの図版に自らと通じる何かを感じ取っていたのかもしれない。

調査研究の推進

1) 文献等の執筆(専門誌や年報などに掲載された学術論文)

菊川亜騎「堀内正和の1957年サンパウロ・ビエンナーレ出品作にみる国際的同時代性の研究」『鹿島美術研究年報』第38号、公益財団法人鹿島美術財団、2022年9月、pp.523-531

靱山昌夫「ロシア帝国の美術 19世紀後半のロシア絵画から イワン・クラムスコイ、ワシーリー・ヴェレシチャーギン、イリヤ・レーピン」『ひらく』⑧、2023年1月5日、pp.4-18

長門佐季「眠る婦人像とアトリエのこと」『ガス燈』第136号、公益財団法人大川美術館、2023年3月24日、pp.3-4

靱山昌夫「コロナ禍の美術館における「触る」ことの意味—神奈川県立近代美術館 鎌倉別館での展覧会「これってさわられるのかな?」の報告—」『神奈川県博物館協会会報』第94号、2023年3月25日、pp.11-14

朝木由香「マン・レイ、その越境する光—『マン・レイと女性たち』展を振り返る」『神奈川大学評論』102号、2023年3月、pp.167-171

2) 図録等の執筆

三本松倫代「むらたちひろ《internal works / 彼方の果》レビュー」「ジョイス・ラム《家族に関する考察のトリロジー》レビュー」「富樫達彦《Eat Your School, Don't Do Vegetable》レビュー」『TOKAS-Emerging 2022』公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース、2022年10月30日

菊川亜騎「青年彫刻家と「土」の自覚—戦時下の石膏欠乏にみる辻晋堂と佐藤忠良の造形」『AGAIN-ST ルーツ/ツール 彫刻の虚材と教材』武蔵野美術大学 美術館・図書館、2022年11月、pp.40-43

長門佐季「松本竣介」『ポーラ美術館開館20周年記念展 モネからリヒターへ—新収蔵作品を中心に』公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館、2022年、p.89

ほか6件(pp.5-21参照)

3) 新聞・雑誌等の寄稿

三本松倫代「美術(海外/日本)」『ブリタニカ国際年鑑 2022年版』ブリタニカ・ジャパン、2022年4月、pp.205-207

菊川亜騎「清水九兵衛—陶芸と彫刻を統べる造形」『美術館ニュース「視る」』第522号、京都国立近代美術館、2022年12月、pp.6-7

ほか4件(pp.5-21参照)

4) 専門的な講座

三本松倫代「TOKAS-Emerging 2022 第1期:アーティスト・トーク」東京アーツアンドスペース本郷、2022年4月2日

菊川亜騎「生誕100年 清水九兵衛/六兵衛」トークイベント「戦後抽象彫刻と清水九兵衛」千葉市美術館講堂、2022年5月28日

菊川亜騎「AGAIN-ST ルーツ/ツール 彫刻の虚材と教材」トークライブ、武蔵野美術大学 美術館・図書館、2022年12月10日

外部資金の活用

1) 外部資金を活用した調査研究

「日本の抽象彫刻をめぐる批評基準の研究—近代美術館設立と展覧会の再考から」令和4年度科学研究費助成事業(若手研究:研究代表者 菊川亜騎)

「日欧シュルレアリスムの交流と共同制作の展開:瀧口修造とジュアン・ミロの書簡研究」令和4年度科学研究費助成事業(基盤研究C:研究代表者 朝木由香)

「若江漢字撮影によるヨーゼフ・ボイス・ドキュメントのアーカイブ構築と公開促進」公益財団法人 DNP 文化振興財団 グラフィック文化に関する学術研究助成(2022年度)(代表者 三本松倫代)

2) 外部資金を活用した展覧会・事業

戦後セメント彫刻の保存修復と活用—堀内正和《横の作品》を一例にして— 公益財団法人戸部真紀財団、令和4年度研究助成金(芸術学/デザイン学分野:代表研究者 橋口由依)

「仲田定之助旧蔵資料の整理・公開・活用促進」公益信託タカシマヤ文化基金、第33回(2022年度)タカシマヤ文化基金団体助成「神奈川県立近代美術館アーカイブ事業」令和4年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費:代表者 長門佐季)

外部委員等就任

職員名	団体名	職名
水沢 勉	群馬県	群馬県立館林美術館作品収集委員会委員
	福岡市	MICEエリアにおけるパブリックアート選定委員会委員
	福岡市美術館	福岡アートアワード選考委員
初山昌夫	平塚市	平塚市美術館協議会委員
	湯河原町	美術品等選定委員会委員
長門佐季	宮城県	宮城県美術館協議会美術品収集専門部会委員
	川崎市	川崎市文化芸術振興会議岡本太郎美術館部会委員
	独立行政法人国立美術館	東京国立近代美術館美術作品評価員
		東京国立近代美術館美術作品購入等選考委員会(美術部門)委員
	世田谷区	世田谷区立世田谷美術館美術品等収集委員会委員
	宇都宮市	宇都宮美術館美術作品等収集評価委員
	平塚市	平塚市美術品選定評価委員会委員
	横須賀市	横須賀美術館美術品評価委員会委員
	東京都	東京都現代美術館美術資料収蔵委員会委員
	横浜市	横浜市美術資料収集審査委員会委員
三本松倫代	国際交流基金	石橋財団・国際交流基金 日本美術リサーチフェロニッップ審査員
	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市美術品審査委員会委員
高嶋雄一郎	神奈川県	神奈川県美術展中高生特別企画展審査員
鈴木彩乃	神奈川県	カナガワビエンナーレ国際児童画展審査員
橋口由依	神奈川県	カナガワビエンナーレ国際児童画展審査員

運営・管理報告

概況

1) 沿革

昭和26年11月17日	神奈川県立近代美術館として開館(鎌倉館)
昭和41年3月31日	収蔵庫及び常設展示室並びに附属棟を増設
昭和44年3月31日	学芸員室を増設
昭和49年8月1日	神奈川県立近代美術館組織規則(昭和49年神奈川県教育委員会規則第9号)により、管理課、学芸課の2課を置く
昭和59年7月28日	別館を開館
平成3年10月30日	本館の改修工事完了
平成13年7月5日	PFI事業契約の締結
平成15年6月1日	神奈川県立近代美術館組織規則の改正により、管理課、企画課、普及課の3課体制となる
平成15年10月11日	葉山館を開館
平成28年3月31日	鎌倉館を閉館
平成28年12月22日	鎌倉館の建物を(宗)鶴岡八幡宮に譲渡
平成29年9月4日	鎌倉別館を改修工事のため一時休館
令和元年10月12日	鎌倉別館の改修工事完了による再開館
令和元年12月26日	葉山館を改修工事のため一時休館
令和2年4月11日	新型コロナウイルス感染防止のため鎌倉別館を臨時休館
令和2年6月9日	感染状況良化に伴い鎌倉別館を再開館
令和2年7月6日	鎌倉別館を改修工事のため一時休館
令和2年7月31日	葉山館の改修工事完了し再開館
令和3年1月12日	新型コロナウイルス感染防止のため臨時休館
令和3年3月23日	感染状況良化に伴い再開館
令和3年10月1日	鎌倉別館の改修工事が完了し再開館

2) 所掌事務

県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を実施する。

3) 施設の状況

令和5年3月31日現在

ア 土地	面積
県有 (葉山館分)	15,034.86㎡
※生涯学習課管理	
(鎌倉別館分)	4,937.00㎡
イ 建物	延床面積
(鎌倉別館分)	1,902.93㎡
借用 (葉山館分) (有償分)	7,111.51㎡

PFI事業の概要

1) 事業内容

鎌倉の地における開館以来半世紀が経過する中で不足してきた機能を補うため、既設館と連携する新館を葉山町に建設し連携することで、これまでの高い企画力を受け継ぎ、展示・収蔵機能の充実など、生涯学習時代にふさわしい機能を備えた美術館を整備することとした。その整備に当たっては、PFI法に基づき事業者が新たに葉山町に新館を建設・所有し、維持管理業務・美術館支援業務・備品等整備業務を行うとともに、既設館についても維持管理業務を行うこととした。事業者は、平成15(2003)年4月に開始した維持管理業務・美術館支援業務が終了する30年後の令和15(2033)年3月末をもって県に施設を無償譲渡する。事業者の主な業務は次のとおり。

- ア 葉山館建設業務：葉山館 新築工事、バスベイ・歩道整備工事など
- イ 維持管理業務：葉山館 建築物修繕、建築設備保守管理（修理を含む）、清掃、警備、受付・監視など
鎌倉館及び鎌倉別館 建築設備保守管理（修理を含まない）、清掃、警備、受付・監視など
※鎌倉館の業務は借地期限の平成27年度までとする。
- ウ 美術館支援業務：美術情報システムの整備及び運用支援、独立採算による付帯施設（レストラン、ミュージアムショップ、駐車場）運営

2) 事業者

株式会社モマ神奈川パートナーズ

所在地：横浜市西区みなとみらい2-2-1

収入・支出の状況

収入	令和4年度実績	
科目	金額(円)	内訳
教育総務費使用料	66,533	鎌倉別館電柱等 土地・建物使用料
社会教育費使用料	51,040,790	観覧料収入
社会教育費事業収入	6,591,201	図録等売払収入
社会教育費受講料収入	196,000	
社会教育費立替収入	2,223,489	レストラン他光熱水費等
教育費雑入	1,620,730	図書館複写料金、 助成金
計	61,738,743	
支出(人件費含まず)		
科目	金額(円)	内訳
維持運営費	26,783,717	維持管理
美術館事業費	63,426,176	展覧会開催費、教育普及事業、 調査研究事業
美術作品整備費	3,358,848	美術作品購入・修復
特定事業費	402,963,345	PFI事業費
県立社会教育施設公開講座事業費	250,000	
計	496,782,086	

※収入・支出とも近代美術館執行分のみ

関係法規

神奈川県立近代美術館条例

昭和42年3月20日

条例第6号

(最終改正)平成28年10月21日

条例第77号

(趣旨)

第1条 この条例は、神奈川県立近代美術館(以下「美術館」という。)の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、美術館を三浦郡葉山町一色2,208番地の1に設置する。

(職員)

第3条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付等)

第4条 美術館に展示している美術館資料を観覧する者(以下「観覧者」という。)は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している美術館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度別に定めることができる。

3 教育委員会は、第1項本文及び前項に規定する観覧料を収めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者(別表備考2に規定する者を除く。)は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第5条 前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。)第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第6条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第7条 美術館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、美術館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、美術館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附則

1 この条例は、昭和42年4月1日から施行する。

2 神奈川県立近代美術館条例(昭和26年神奈川県条例第46号)は、廃止する。

<略>

附則(平成28年10月21日条例第77号)

この条例は、平成28年12月1日から施行する。

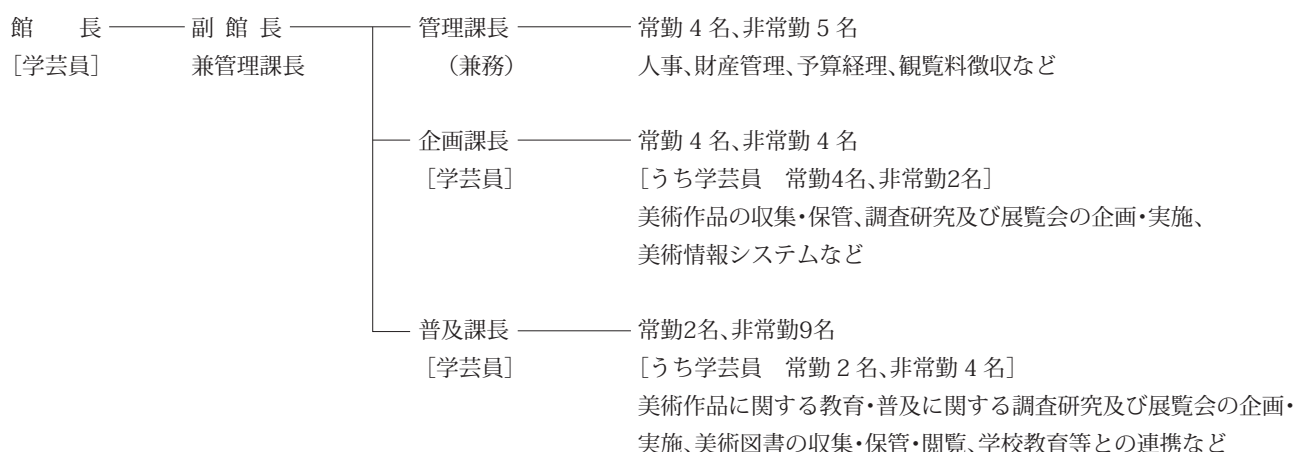
別表(第4条関係)

区 分	個 人	20人以上の団体
20歳以上65歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1人につき 250円	1人につき 150円
20歳未満の者(高校生を除く。) 学生(65歳以上の者を除く。)	同 150円	同 100円
65歳以上の者 高校生	同 100円	同 100円

- 備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。
2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

組織

葉山館の整備による組織の改編を行うため、神奈川県立近代美術館組織規則を改正(平成15年6月1日施行)し、従来の管理課・学芸課の2課体制から、管理課・企画課・普及課の3課体制となった。令和5年3月31日現在の職員配置状況は次のとおり。



職員数合計 32名
常勤 13名(再任用 1名、臨任 1名含む)、非常勤 19名(短時間勤務再任用 1名を含む)
[うち学芸員 常勤 8名(臨任 1名含む)、非常勤 7名]

館別配置状況

葉山館 常勤 10名(臨任 1名含む)、非常勤 15名(短時間勤務再任用 1名を含む)
[うち学芸員 常勤 6名(臨任 1名含む)、非常勤 5名]
鎌倉別館 常勤 3名(再任用 1名含む)、非常勤 4名
[うち学芸員 常勤 2名、非常勤 2名]

職員一覧

館長(非常勤)	水沢 勉		
副館長	齋藤 基幸		
管理課	課長(兼)	齋藤 基幸	
	副主任	木内 久美子	
	主事	藤堂 安規	
	主事	伊藤 朗	
	管理業務主任専門員	吉田 浩	
	非常勤事務補助員	二藤部 映	
	非常勤事務補助員	原田 裕子	
	非常勤事務補助員	菊池 広美	
	非常勤事務補助員	伊藤 智子	
	非常勤事務補助員	大平 容子	
	非常勤事務補助員	山田 由利佳	2022(令和4)年6月16日から9月30日まで
企画課	課長	長門 佐季	
	主任学芸員	高嶋 雄一郎	
	学芸員	菊川 亜騎	
	学芸員	橋口 由依	
	臨時学芸員	朝木 由香	
	非常勤研究員	伊藤 由美	
	非常勤学芸員	荒木 和	2022(令和4)年6月16日まで
	非常勤学芸員	松尾 子水樹	2022(令和4)年7月1日から
	非常勤学芸員	岩井 智子	
	非常勤事務嘱託	本田 秀行	
普及課	課長	稲山 昌夫	
	主任学芸員	三本松 倫代	
	主任学芸員	西澤 晴美	
	非常勤学芸員	鈴木 敬子	
	非常勤学芸員	八木 めぐみ	
	非常勤学芸員	吉田 有璃子	
	非常勤学芸員	鈴木 彩乃	
	[美術図書室]		
	図書業務専門員	鈴木 めぐみ	
	非常勤司書	阿部 尚子	
	非常勤司書	山中 久美子	
	非常勤司書	中村 瑞木	
	非常勤司書	丹羽 奈緒子	
	司書(兼務)	鈴木 明子	2022(令和4)年8月10日から10月31日まで

神奈川県立近代美術館
年報 2022(令和4)年度

発行日：2023年12月28日

編集：神奈川県立近代美術館
葉山館 〒240-0111 三浦郡葉山町一色 2208-1 電話 046-875-2800
鎌倉別館 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下 2-8-1 電話 0467-22-5000

制作：有限会社リーヴル

ANNUAL REPORT 2022

Edited and published by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama
Produced by Livre

© 2023 The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama

